

平成27年度スポーツ庁委託事業
【コーチング・イノベーション推進事業】

平成27年度
コーチ育成のための
「モデル・コア・カリキュラム」作成事業
報告書

平成28年3月

公益財団法人 日本体育協会

平成27年度スポーツ庁委託事業
【コーチング・イノベーション推進事業】

平成27年度
コーチ育成のための
「モデル・コア・カリキュラム」作成事業
報告書

平成28年3月

公益財団法人 日本体育協会

目次

I. はじめに	1
II. 事業の実施内容	
1. モデル・コア・カリキュラムの位置づけに関する考え方	2
2. モデル・コア・カリキュラム完成までの手順.....	4
3. 評価・検証	
(1) トライアル授業.....	6
(2) ヒアリング調査	15
(3) ICCE へのヒアリング調査	20
(4) 日本体育学会会長へのインタビュー及び書面調査.....	23
(5) 全国体育系大学学長・学部長会への書面調査.....	26
(6) 評価・検証のまとめ.....	32
III. 事業の成果	
1. モデル・コア・カリキュラムの基本的な考え方	
(1) 基本理念	33
(2) 位置づけ.....	34
(3) グッドプレーヤー像、グッドコーチ像	34
2. カリキュラムの構成と時間数.....	36
3. 教育目標ガイドライン.....	38
4. 大学等への導入における既存授業のカリキュラムの読み替え対応科目例	69
5. 大学等への導入におけるカリキュラム基礎編(15回授業)参考例	70
6. 評価表(コンピテンシーリスト).....	73
IV. 課題と提言	
1. モデル・コア・カリキュラム作成後の活用策.....	78
(1) 日本体育協会公認スポーツ指導者養成カリキュラムへの導入	78
(2) 全国体育系大学学長・学部長会加盟大学における導入.....	78
(3) 教員養成系大学における導入、教員現職研修等における導入	78
2. 大学及びスポーツ指導者(コーチ)養成団体等への導入に関する課題	
(1) アクティブ・ラーニングによる学習	78
(2) 実習の場の確保と評価方法について	79
(3) コーチ育成者(コーチ・デベロッパー)の養成	79
(4) 効果的な学習を促す教材の作成.....	80
(5) 評価基準の作成と提示	80
(6) モデル校によるトライアル授業.....	80

3. 制度的な課題(実効性ある仕組みづくり)	
(1) 日本スポーツ界の「コーチ育成基準カリキュラム」としてのルール作り.....	81
(2) カリキュラム修了者(有資格者)の処遇について	81
4. 提言(2020 のレガシーとして)	83
会議開催経過(日程、出席者等)	85
委員名簿.....	89

I. はじめに

平成 25 年 4 月、文部科学副大臣の下に設置された「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)」の提言に基づき、我々は、これまでのグッドプレーヤーを育てたグッドコーチ像を描き出し、スポーツ指導者に求められる資質能力を明確にしてきました。そしてその資質能力は少なくともスポーツ指導を本格的に始める年齢、つまり、大学を卒業する頃までには育まれる必要があると考え、コーチ育成「モデル・コア・カリキュラム」を大学教育の中に導入しようとしてきました。

スポーツ医・科学やスポーツコーチングの専門家からなるワーキングチームがカリキュラムの原案を作成し、体育系大学を中心とした管理職からなる専門研究委員会がアドバイスを送るというキックボール体制で作業を進めてきました。

その結果、資質能力を、コアとなる思考・判断や態度・行動により構成される「人間力」と、その周りにある一般的そして専門的な「知識・技能」に区分し、それぞれに必要と考えられる領域と内容をカリキュラムに盛り込みました。その上で、カリキュラムですから、それぞれの講義の概要と到達目標などからなる「教育目標ガイドライン」を作成しました。もちろん、必要時間数、15 コマでの実施例、さらにはコンピテンシーリストも示して、実際の講義への具体性ももたせました。

特筆すべきは、従来の日本体育協会公認コーチ養成共通科目カリキュラムでは人間力の内容が 17%、現場実習が 0%であったのに対して、このカリキュラムでは人間力が 34%、現場実習が 27%を占めていることです。コーチング・イノベーションを推進しているといえるでしょう。

さらにできあがったカリキュラムに対して、トライアル授業を実施して内容を検証し、コーチングの専門家、日本体育学会、ICCE 会長、そして全国体育系大学学長・学部長会の 4 つの方面からの評価を受けてさらに内容をブラッシュアップしました。講義を担当する人材が確保できるのか？テキストの作成が必要ではないか？といった課題は残っているものの、既存の講義への読み替えができる、既存の講義へ内容を分散させて入れ込めるなど、体育系および教員養成系それぞれの大学の多様性を考慮した柔軟性のあるカリキュラムが提示できたのではないかと考えています。

この先、挙げられた課題を解決し、カリキュラムを効果的に実施するとともに、スポーツ指導者のステータスを確かなものにするためには、スポーツ庁を中心とした日本スポーツ界のすべての組織・団体が協力し、大きく 3 つの道筋を作るべきと考えます。

一つ目は、このカリキュラムを「コーチ育成カリキュラムのスタンダード」として位置づけ、「すべてのコーチがグッドコーチ」となるように取り組むこと。

二つ目は、「コーチ育成カリキュラムのスタンダード」を修了していなければグッドコーチではないという認識の上、修了者(有資格者)に対して適切な処遇をすること(有資格者と無資格者を明確に差別化する覚悟持つこと)。

三つ目は、日本体育協会を中心にスポーツ界全体でコーチの成長を継続的に支援する(コーチング研究、学びの機会や情報提供・発信の場の確保等)体制を強化し、コーチ経験者が専門家として携わっていけるような場(職域)を確保する必要があると考えています。

モデル・コア・カリキュラム作成専門研究委員会
座長 平野 裕一

II. 事業の実施内容

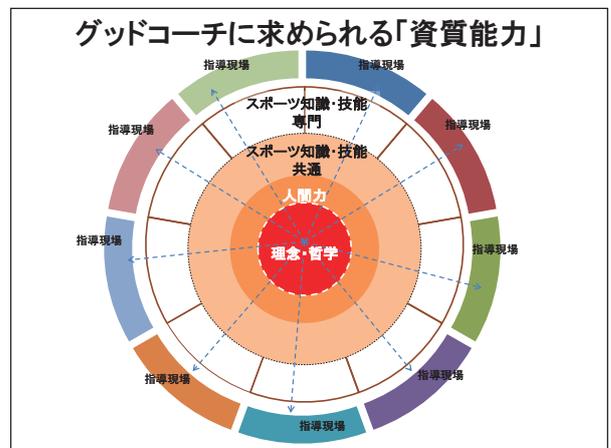
1. モデル・コア・カリキュラムの位置づけに関する考え方

本事業の最終的な成果物である「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム」が目指すゴールは、①体育系大学等で行われるコーチ育成の過程において確実に習得すべき資質能力を明らかにすることと、そのために必要な②「モデル・コア・カリキュラム」を作成することである。

平成26年度の検討作業により、①体育系大学等で行われるコーチ育成過程において確実に習得すべき資質能力を「グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)」を下図のようにまとめるとともに、②「モデル・コア・カリキュラム」の元となる骨子「を学ぶべき内容のキーワード」としてまとめることができた。

【グッドコーチに求められる資質能力】

グッドコーチに求められる資質能力 (思考・態度・行動・知識・技能)		
理念・哲学(スポーツ精神): 自分自身のコーチングを形作る中心にあるもの 人間力: プレーヤーや社会との良好な関係を築くために必要な資質能力 スポーツ知識・技能: スポーツ指導を行う上で必要となるスポーツ科学の知識・技能		
理念・哲学 (スポーツ精神)	スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学(人が好き、スポーツが好き、スポーツの意義と価値の理解、プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ、社会規範、スポーツの高潔性)	
人間力	対自分	学び続ける姿勢(自己研鑽)、前向きな思考・行動、くじけない心、課題発見力、課題解決力、自己統制、内省、社会規範
	対他者 (人、社会)	基本的人権の尊重、相互理解、プレーヤーズ・ファースト、暴力・ハラスメントの根絶、コミュニケーションスキル、マネジメントスキル、目標設定、協力・協調・協働、長期的視点、関係構築力
スポーツ 知識・技能	共通	あらゆるコーチング現場に共通するスポーツ科学
	専門	個々のコーチング現場別(競技別、年代別、レベル別、障がいの有無 など)に求められる専門知識・技能



【モデル・コア・カリキュラム骨子】

モデル・コア・カリキュラム骨子			
資質能力区分	学ぶべき内容の例(教育目標や到達目標に入るべきキーワード例)	現場で経験すべき内容	
思考 (理念・哲学)	スポーツの意義と価値、スポーツ精神(スポーツマンシップ、フェアプレー)、倫理観、規範意識、プレーヤーズ・ファースト、暴力・ハラスメント根絶、ガバナンス、インテグリティ、オリンピック(オリンピック・パラリンピック)、アンチ・ドーピング(理念)、コーチの役割と使命(職務)	コーチング実践と評価 指導計画、練習計画の作成(立案) コーチングの実際(個人・グループ) コーチングの実際(ゲーム)	
態度・行動 (人間力)	対自分	多様な思考法(復眼的思考、論理的思考、批判的思考)、課題発見・解決、セルフコントロール(メンタルマネジメント、アンガーマネジメント、レジリエンス、タイムマネジメント)、コーチのキャリアデザイン(コーチの成長過程、キャリアデザイン、ワークライフバランス)	観察・分析とアドバイス(個人の動き、ゲーム) プレゼンテーション ファンリテーション コーチングの評価 障がい者スポーツの体験
	対他者 (人、社会)	人権、リスクマネジメント、言語・非言語コミュニケーション(観察、積極的傾聴と質問、プレゼンテーション、ファンリテーション)、プレーヤーを取り巻く人や組織等(アントラージュ)との関係構築、プレーヤー・チームのマネジメント(チームビルディング、プロモーション)、プレーヤーのキャリアデザイン(目標設定、長期的視点、デュアルキャリア)	
知識・技能 (スポーツ 知識・技能)	共通	発育発達段階や技能レベルに応じた指導に関する知識・技能、外傷と障害の防止に関する知識・技能、特定のスポーツではなく競技横断的な知識・技能、指導計画立案・実践・評価、スポーツ活動を円滑に進めるために必要な知識・技能、(バイオメカニクス、生理学、解剖学、栄養学、医学、社会学、心理学、法学、哲学、倫理学、経営学、コーチング理論 など) 学校スポーツ、コミュニティ・スポーツ、トップスポーツ、障がい者スポーツ、女性とスポーツ、アンチ・ドーピング	
	専門	競技特性・指導対象者特性に応じた知識・技能 (競技の歴史・規定・規則、戦術、競技レベル、志向、年代・性別・障がい有無等に応じた指導法 他)	

(平成26年度報告書 p120 を修正)

平成 27 年度は最終成果物である「モデル・コア・カリキュラム」を提案することとなるが、平成 26 年度の検討作業を踏まえ「モデル・コア・カリキュラム」の位置づけと体育系大学等における導入の考え方を次のとおりとした。

モデル・コア・カリキュラムとは、多様化・高度化・専門化する体育・スポーツにおいて、体育系大学等の学生が卒業後にコーチとして現場に立つことを見据え、コーチに求められる資質能力（思考・態度・行動・知識・技能）を確実に習得するために必要な内容を『教育目標ガイドライン（講義概要（目的やねらい）・到達目標・時間数）』として提示するもので、体育系大学等におけるカリキュラム作成の参考となるものとして位置づける。

したがって、体育系大学等における導入にあたっては、

- ① 授業科目名、教育手法、履修順序等については各学校に委ねることとする
- ② 各学校が既に定めている授業科目の読み替えや内容の修正、新たな科目として導入する方法などが想定されるが、導入方法については、各学校に委ねることとする

一般的にカリキュラムというと、教育の内容を学習段階に応じて配列したものを指し、科目はそのカリキュラムの中にある学問分野別に分類したものを指す。そして科目内の授業計画や学習内容を時限ごとに示したものをシラバスと言っている。

モデル・コア・カリキュラムでは、学びの段階的な配列までを指定するのではなく、学ぶべき内容を「教育目標ガイドライン」と名付けて、講義の概要（ねらいや目的）と到達目標を明確に示すこととした。

これにより、大学等での導入の実現可能性を高めることとした。

2. モデル・コア・カリキュラム完成までの手順

平成 26 年度の作業により、モデル・コア・カリキュラムの骨子となる学ぶべき内容のキーワードをまとめることができた。

最終成果物であるモデル・コア・カリキュラムは、学ぶべき内容のキーワードを整理していくことからスタートし、具体的な講義内容をイメージして教育目標ガイドラインを作成。最終的に体育系大学等への導入がスムーズに行われることを意識して体系化することとした。

完成までの具体的な作業は、①科目の整理、②教育目標ガイドラインの作成、③カリキュラムの体系化、④評価・検証の 4 つとした。

- ① 科目の整理: 科目の整理とは、モデル・コア・カリキュラム骨子としてまとめた学ぶべき内容の例(キーワード)の中から類似するものを整理し、大項目、中項目、小項目に分類作業である。たとえば、資質能力区分の思考(理念・哲学)の中の「スポーツの意義と価値、スポーツ精神(スポーツマンシップ、フェアプレー)、インテグリティ、オリンピズム(オリンピック、パラリンピック)」を「スポーツの意義と価値」としてまとめ、「倫理観、規範意識、プレーヤーズファースト、暴力・ハラスメント根絶、ガバナンス、アンチドーピング(理念)」を「倫理観・規範意識」としてまとめ。資質能力区分を大項目、キーワードのかたまりを中項目、キーワードを小項目にまとめる作業。

資質能力区分	学ぶべき内容の例(教育目標や到達目標に入るべきキーワード例)
思考 (理念・哲学)	スポーツの意義と価値、スポーツ精神(スポーツマンシップ、フェアプレー)、倫理観、規範意識、プレーヤーズファースト、暴力・ハラスメント根絶、ガバナンス、インテグリティ、オリンピズム、パラリンピック(オリンピック、アンチドーピング(理念)、コーチの役割と使命(職務))
態度・行動 (人間力)	対自分: 多様な思考法(批判的思考、論理的思考、批判的思考)、課題発見・解決、セルフコントロール(セルフマネジメント、レジリエンス、タイムマネジメント) 対他人(人、社会): コーチ(観察、積極的傾聴と質問、取り巻く人や組織等(アントレプレナーシップ、チームビルディング、プロジェクト設定、長期的視点、デュアルキャリア))
知識・技能 (スポーツ知識・技能)	共通: 発達段階や能力レベルに応じた指導に関する知識・技能、外傷と障害の防止に関する知識・技能、特定のスポーツではなく競技種別の知識・技能、スポーツ活動を円滑に進めるために必要な知識・技能、指導計画立案・実践・評価(バイオメカニクス、生理学、解剖学、栄養学、医学、社会学、心理学、法学、哲学、倫理学、経営学、コーチング理論 など) 学校スポーツ、コミュニティ・スポーツ、トップスポーツ、障がい者スポーツ、女性とスポーツ、アンチドーピング 専門: 競技特性・指導対象者特性に応じた知識・技能(競技の歴史・規定・規則、戦術、競技レベル、志向、年代・性別・障がい有無等に応じた指導法 他)

資質能力区分	学ぶべき内容の例(教育目標や到達目標に入るべきキーワード例)
思考 (理念・哲学)	スポーツの意義と価値、スポーツ精神(スポーツマンシップ、フェアプレー)、倫理観、規範意識、プレーヤーズファースト、暴力・ハラスメント根絶、ガバナンス、インテグリティ、オリンピズム、パラリンピック(オリンピック、アンチドーピング(理念)、コーチの役割と使命(職務))
態度・行動 (人間力)	対自分: 多様な思考法(批判的思考、論理的思考、批判的思考)、課題発見・解決、セルフコントロール(セルフマネジメント、レジリエンス、タイムマネジメント) 対他人(人、社会): コーチ(観察、積極的傾聴と質問、取り巻く人や組織等(アントレプレナーシップ、チームビルディング、プロジェクト設定、長期的視点、デュアルキャリア))
知識・技能 (スポーツ知識・技能)	共通: 発達段階や能力レベルに応じた指導に関する知識・技能、外傷と障害の防止に関する知識・技能、特定のスポーツではなく競技種別の知識・技能、スポーツ活動を円滑に進めるために必要な知識・技能、指導計画立案・実践・評価(バイオメカニクス、生理学、解剖学、栄養学、医学、社会学、心理学、法学、哲学、倫理学、経営学、コーチング理論 など) 学校スポーツ、コミュニティ・スポーツ、トップスポーツ、障がい者スポーツ、女性とスポーツ、アンチドーピング 専門: 競技特性・指導対象者特性に応じた知識・技能(競技の歴史・規定・規則、戦術、競技レベル、志向、年代・性別・障がい有無等に応じた指導法 他)

大項目	中項目	小項目	教育手法(案) (学び方)	時間数
思考(理念・哲学) コーチングの理念・哲学	スポーツの意義と価値	スポーツとは(概念、歴史) スポーツの文化的特性 スポーツと社会の関わり スポーツ精神(自己責任、克己心、フェアプレーの精神) 青少年の健全育成(コミュニケーション能力、豊かな心、他者に対する思いやりの心) スポーツ基本法、スポーツ宣言日本 スポーツのインテグリティ オリンピズム(オリンピック、パラリンピック)		
	コーチの倫理観・規範意識	コーチング哲学(グッドプレーヤーとは、グッドコーチとは) プレーヤーズファースト 人権、暴力・ハラスメントの根絶 アンチドーピング(理念) コーチング(リーダーシップ)スタイル ガバナンス スポーツの法的問題		

- ② 教育目標ガイドラインの作成:教育目標ガイドラインは、整理・分類した中項目ごとに講義の概要、到達目標、時間数、教育手法を作成する作業。

教育目標ガイドライン(イメージ案)	
コーチングの理念・哲学 「スポーツの意義と価値」	
大項目	中項目 <small>次 時間以上</small>
講義の概要 (ねらい、目的)	***** *****
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> *****を理解し説明できるようになる。 *****について理解し説明できるようになる。 *****について理解し説明できるようになる。 *****について理解し説明できるようになる。 *****について理解し、実行できるようになる。 <p style="text-align: center;">小項目</p>
教育手法 (参考)	講義 グループワーク

2015/7/6 4

- ③ カリキュラムの体系化:カリキュラムの体系化とは、大学等での導入にあたり、すべての学生が学ぶべき基礎科目と、コーチとしてより実践的で専門的な内容を幅広く深く学ぶ応用実践科目に分ける作業。

カリキュラムの体系化					
		基礎科目		応用実践科目	
		科目名	時間	科目名	時間
思考 (理念・哲学)					
対目分 (人間力)	対他者				
共通 (知識・技能)	知識・技能				
	専門				

2015/7/6 5

- ④ 評価・検証:ワーキングチームにおいて作成したモデル・コア・カリキュラムの原案について、その内容や大学等への導入可能性について関係者及び関係機関による評価を依頼し検証する作業。(次ページ以降に報告)

ヒアリングによる検証	全国体育系大学学長・学部長会幹事校やコーチング推進コンソーシアム構成メンバーを対象にヒアリング調査を実施 *対象者を絞って、5名(団体)程度
トライアル授業による検証	ワーキングメンバーが所属する体育系大学に協力を仰ぎ、モデル・コア・カリキュラム(教育目標ガイドライン)に基づいた授業を試験的に実施し、実現可能性や効果的な教育手法などについて検討 具体的には、 ・「思考(理念・哲学)」「態度・行動(人間力)」にあたる授業を試験的に実施 ・授業を通じて「わかる」から「できる」ようにするための効果的な手法(授業方法)を検討
日本体育学会による検証	日本体育学会に、モデル・コア・カリキュラム(教育目標ガイドライン)について評価を依頼
ICCEによる検証	ICCEに、モデル・コア・カリキュラム(教育目標ガイドライン)について評価を依頼

3. 評価・検証

ワーキングチームにおいて作成したモデル・コア・カリキュラムの原案について、その内容や大学等への導入可能性について関係者及び関係機関による評価を依頼し検証することとした。

当初予定では4つの検証作業を行うこととしていたが、全国体育系大学学長・学部長会加盟校への書面調査を追加し、以下(1)～(5)の検証作業を行った。

(1) トライアル授業

1) 目的

ワーキングチームにて作成した「教育目標ガイドライン」に基づき、カリキュラム内容の実現可能性や効果的な教育手法等について評価するため、トライアル授業を実施した。

2) 日時

平成27年11月7日(土) 10:00～15:30

3) 場所

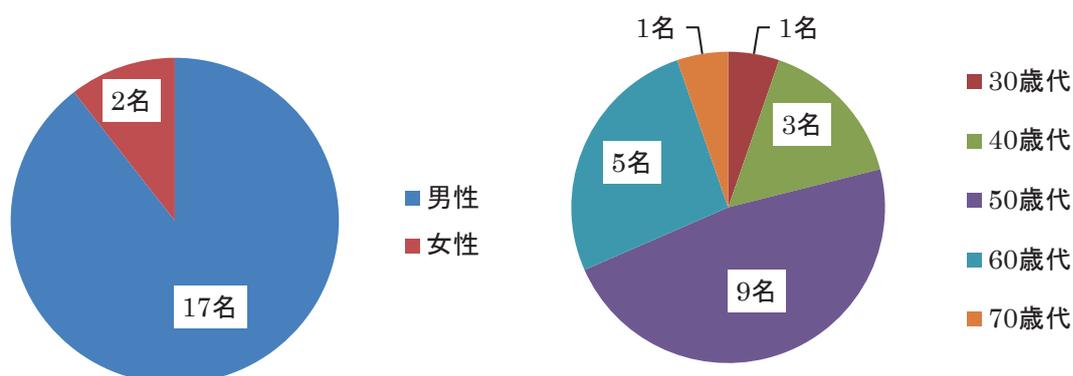
日本体育協会 理事・監事室

4) 対象者

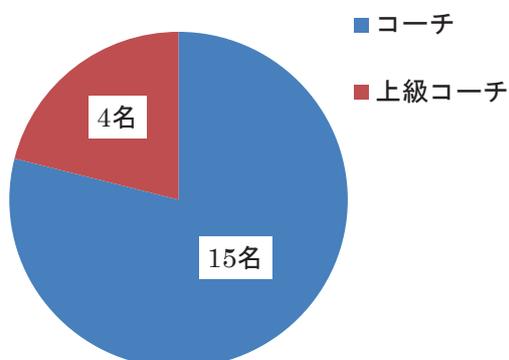
東京都登録の公認コーチ・上級コーチ資格保有者 19名

①性別:男性17名 女性2名 計19名

②年齢層:20歳代0名、30歳代1名、40歳代3名、50歳代9名、60歳代5名、70歳代1名



③保有資格:コーチ15名、上級コーチ4名



<受講者詳細情報>

競技名	保有資格名	性別	年齢層
カヌー	コーチ	男性	50 歳代
バスケットボール	コーチ	男性	50 歳代
バレーボール	上級コーチ	男性	40 歳代
バレーボール	上級コーチ	男性	70 歳代
バレーボール	コーチ	男性	40 歳代
バレーボール	コーチ	男性	50 歳代
ボート	上級コーチ	男性	60 歳代
ボクシング	コーチ	男性	40 歳代
ライフル射撃	コーチ	男性	60 歳代
ラグビーフットボール	コーチ	男性	50 歳代
自転車競技	コーチ	男性	30 歳代
自転車競技	コーチ	男性	50 歳代
水泳	コーチ	女性	60 歳代
水泳	上級コーチ	男性	50 歳代
卓球	コーチ	男性	40 歳代
卓球	コーチ	男性	50 歳代
馬術	コーチ	男性	60 歳代
馬術	コーチ	女性	50 歳代
陸上競技	コーチ	男性	50 歳代

5) 方法

「教育目標ガイドライン」のうち、①思考(理念・哲学)と②態度・行動(人間学)についての講義を各 90 分行った。

講師については、①思考(理念・哲学)を日本体育大学の伊藤雅充氏、②態度・行動(人間学)を JOC キャリアーアカデミーの相馬浩隆氏が行った。

6) アンケート結果

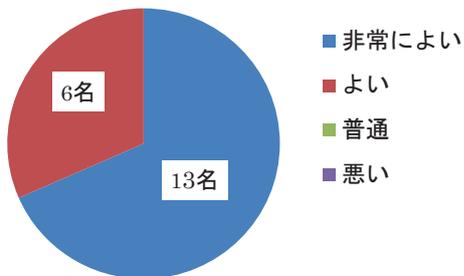
以下は受講した参加者のアンケート結果を以下に示す。

【講義①】思考(理念・哲学)

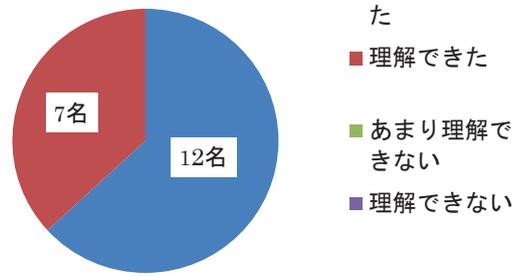
講師:伊藤雅充(日本体育大学)

時間:90分

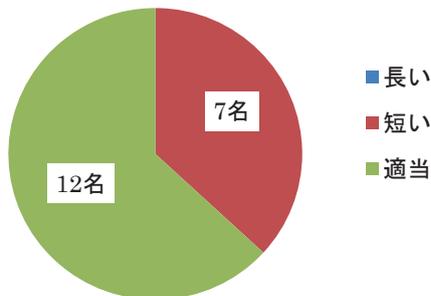
①講義内容



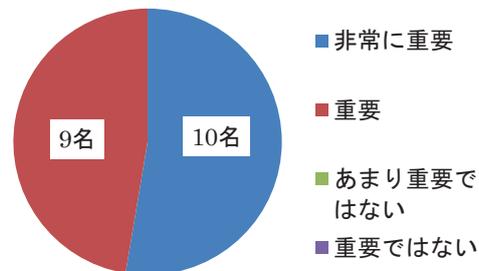
②理解度



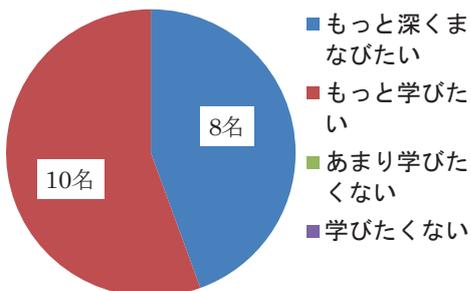
③講義時間



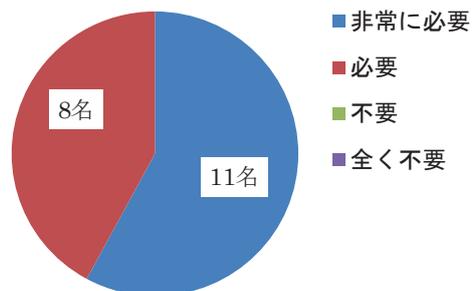
④重要度



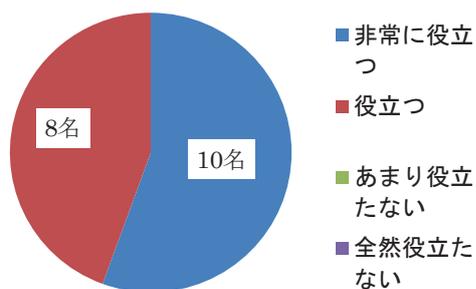
⑤内容



⑥必要度



⑦役立ち度



(1)あなたが資格取得の際受講した座学の講義と比べて、この講習の進め方をどのように感じましたか。

<感想>

- ・他競技・他種目との意見交換をミックスしていて、今の自分にはよかった。資格取得の際に、同様に動き(カード式整理法)を利用した講義があったが、その時は同競技でグループをつくったのですが、その時の自分には、同競技での他種目指導者と話を持ってよかったです、バランスが重要かと思います。
- ・今までの受講は聞くだけであったが、今回は自分の経験の話、人の話を聞く事で勉強になりました。
- ・従来の義務研修の中で一番役に立つ内容(コーチングの土台部分に関わるプログラム)をもっと沢山のコーチにも広げていくべき。
- ・資格取得の際にも同じ様なロールプレイングがあり興味深かったですが、今回の講義も楽しかったです。
- ・他競技の指導者の考え方、またコミュニケーションが取れたことがとてもよかったです。情報提供も取れた。
- ・(資格を取得した際は)教科書にそって内容説明を受けていたと思います。受講していた感が強く、テストがあるので受講したという思いが残っています。今回のアクティブな講習受講は自身体験を伴うことで強い印象がありました。
- ・他競技の指導者の考え方、またコミュニケーションが取れたこととてもよかったです。情報提供も取れた。
- ・コーチの役割を自分なりに整理するきっかけになった。
- ・あっという間に時間が過ぎてしまい、もっと講義を聞きたいと思いました。
- ・短時間ではありましたが、座学の講義と比べて理解度が高まると思います。
- ・アクティブ・ラーニングのいい見本として、参考になった。
- ・自分たちで協議した内容をベースにして講義を進めていくのでわかりやすい。
- ・ただ聴くだけより内容がわかりやすい
- ・単に座学で一方的に聴くよりは、体験しながらの講義で楽しみながらできた。
- ・参加型でよかった。
- ・両国のホテルでの(講習会では)一方通行の講義でした。コーチの役割について、再認識できました。大変良かったと思います。

<意見>

- ・ずいぶん昔のことでしたので、あまり比べることができません。進め方としては、自分でも応用できるように考えました。時間をとって、各自が出来るようにしたかった(代表者一人ではなく)。
- ・アクティブ・ラーニングはいい方法かもしれませんが、あまりなじめないかな?と感じました。先生の講義をもっとじっくり深く伺いたかったです。その上で質問やディスカッションという形式にして頂いた方がいいように思います。
- ・アクティブ・ラーニングを行うには時間足りず、講師が早口になり、語られていることが理解できず、頭に染み込む間がなく先へ進む為、身につくか不明。グループワークもメンバーの質問に大きく左右されるので、講習会の内容を理解した後にアクティブ・ラーニングでその内容を充実させる方法がいいと思われる。

- ・内容も進行も別物

(2) 今回の講習を受けて、印象に残ったこと/役に立つと思ったことは具体的にどのようなところですか

<感想>

- ・競技指導に対してのコーチの方々の意識を高く感じました。これは、特にご自身も競技者だった方が強くもってらっしゃるのだと改めて思いました。
- ・他競技の方と話し、自分の視界が広くなりました。
- ・この講習を受けて、出来るだけ自分の事に応用して行きたいと思います。まだまだ学ぶところは沢山あるのでよろしくお願い致します。
- ・コーチの主な職務を具体的に意識でき、今後の活動に大きく参考になる内容であった。
- ・他競技の方々のお話が聞けて、自分の指導や活動等に活用できます。(馬術等マイナー競技は世界が狭いので、ネタが詰まっています。他の競技からいろいろなアイデアを頂けるので、本当に為になります。)
- ・コーチの役割、主な職務
- ・コーチの役割を六つに分類して明確にできた事が役に立ちます。
- ・選手に指導する以前に、コーチとしてのビジョンを組み立てておくことが必修である。競技力向上が技術指導すべてではないこと。
- ・グループで出した結果と先生が用意された結果に開きがあったように思う。
- ・①自分のチームでの立ち位置を考えられた。(ビジョン環境)、②コーチの職務として足りないところ、今後身につけるべきところがわかった。(現場理解と振り返り)
- ・コーチの仕事という事をプレゼンテーションにした事が改めて整理・復習ができました。
- ・ティーチングとコーチングの違いがよく理解できた。
- ・コーチの役割の内、自分の得意とする所、苦手な所の再認識ができた。また、得意なことはさらに伸ばしていき、苦手な所を改善していく…
- ・中堅研修的に将来に向けて、指導の考え方を再認識するのに役立つと感じた。
- ・ブレインストーミング的手法を使って、やるべき事を整えて行くのは必要であり、活用できると考える。
- ・指導の方法でぼんやりと感じていた事が、はっきりと理解できた。競技種目によって共通する事と違っていることがあることがよくわかった。
- ・ビジネスにも応用できるし、より具体化された説明がわかりやすく理解しやすかった。
- ・ポストイットの使用、まとめ方(が勉強になった)

<意見>

- ・コーチに求められるものといいますか、コーチ、マネジメントとさまざまな言葉が1つの領域を決めてもつことは難しいです。広い視野をもう少し学びたいと思いました。
- ・受ける講義から参加型となり、自分の表現の仕方が勉強になりました。今後ともこの方がいいと思います。
- ・全く別事になりますが、このチームをいつ辞めるかを考える場が必要だと思います。
- ・もう少し、詳しい内容について勉強していきたいと感じた。
- ・このように他の競技者との意見交換が(できて)良かったと思う。

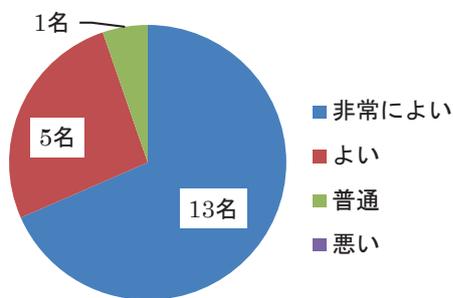
- ・日本以外の他の国の指導者のお話を聞きたいです。
- ・座学に比べてワークが入るため、講義時間とのバランスが難しいかもしれないと感じました。
- ・今回、スポーツの意義と価値、特に価値がないと思っている人に対してどうすればいいのか？ヒントをもらいかった。
- ・本日の内容において、コーチとしてのスキルや目指すものの図表を示していただければ有り難い。
- ・東京都のコーチ養成講習会でも同じようなことをやってみたいと思います。

【講義②】態度・行動(人間力)／対他者)コミュニケーション

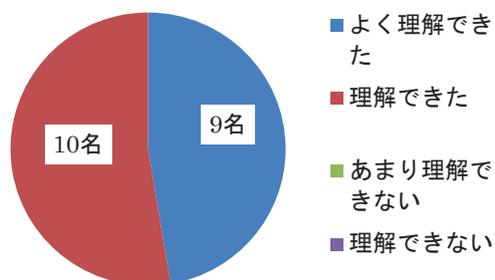
講師: 相馬浩隆(日本オリンピック委員会)

時間: 90分

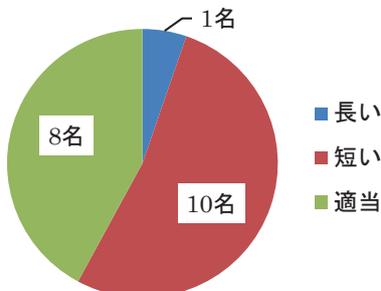
①講義内容



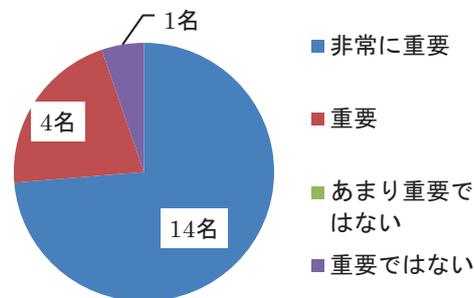
②理解度



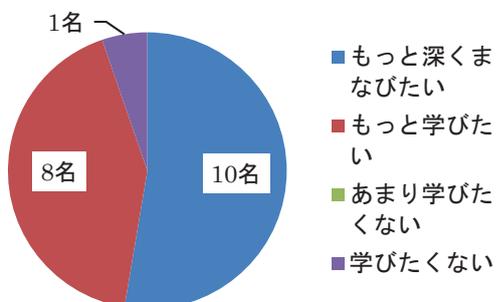
③講義時間



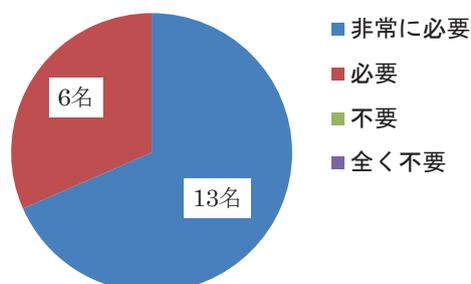
④重要度



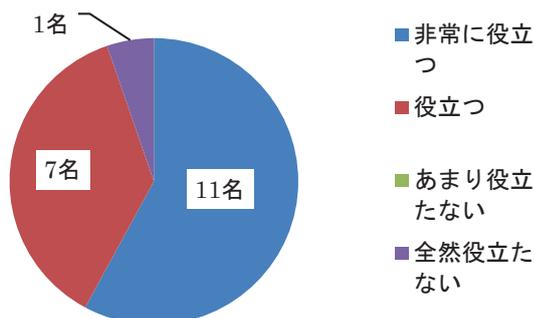
⑤内容



⑥必要度



⑦役立ち度



(1)あなたが資格取得の際受講した座学の講義と比べて、この講習の進め方をどのように感じましたか

<感想>

- ・資格取得時も同様の形で行っていましたが、今回くらいの少人数がよいと思いました。資格取得の時は、お隣とだけでしたので。
- ・参加形式は自分自身の勉強になりました。
- ・ずいぶん前に資格を取ったので、今はどのようになっているのかを学びたいと思いました。実際には非常に必要(な内容)ですので、実践的に学ぶのは有意義でした。
- ・アクティブ・ラーニングについては前頁と同様、他競技の方々と話ができたこと、その競技の特性やコーチングの経験を聞いたことが良かったです。
- ・とてもよかった。指導者の意識を考えながら取り組めた。
- ・体験学習は良いと思う。
- ・重要性が実感できた。なるほどと思う部分が多くあった。
- ・少人数だったので、講師との距離が近く非常に集中できた。
- ・座学に比べてとてもよかったです。
- ・一方通行ではない参加型の研修は競技間の枠を超えられるいい手段と考えられる。
- ・それぞれ互いに役割を変えながら、実際やってみてその後に先生の解説も有り、わかりやすかった。
- ・やはり聞くだけより(アクティブ・ラーニングの受講形式の方が)深く理解できると思う。
- ・午前(の講義)と同様に、体験しながら進めていくので、楽しみながら理解する事が出来た。
- ・実践型でよかった。内容が高度であると思います。話す方も傾聴側も対応は難しい。
- ・座学の内容的には同じと思いますが、ワークを通じて実践できたことが一番だと思います。受講生の方々の意見が聞いたのが良かったと思います。

<意見>

- ・コーチスキルの基本として、資格取得の際に勉強をするシステムを導入しては？
- ・申し訳ありません。今回の授業の内容は現場で必要なことなので、もうすでにやっていることです。日常茶飯事色々な問題にぶつかってのベテラン揃いの受講者だと思います。不要では。
- ・アクティブ・ラーニングを行うには、時間が足りず、講師が早口になり、語られていることが理解できず、頭に染み込む間がなく、先へ進む為、身につくか不明。グループワークもメンバーの質問に大きく左右されるので、講習会の内容を理解した後にアクティブ・ラーニングでその内容を充実させる方法がいいと思われる。

- ・内容も進行も別物

(2) 今回の講習を受けて、印象に残ったこと/役に立つと思ったことは具体的にどのようなところですか

<感想>

- ・職業上でティーチングとコーチングと使い分けている意識をもっていますが、改めて使い分けを認識しました。
- ・これからは送り手が言いたい事、やりたい事を聞く側になり、時々アドバイス目線にしたいと思います。
- ・傾聴のスキルでやはり反映、認知をやってみるという所が良かったです。
- ・もう少し深い内容を勉強したいと感じた。特に「聴くスキル」は役に立つ。
- ・ティーチングとコーチングの使い分け、コーチングにおける大切なことを教えて頂けてよかったです。
- ・傾聴のスキルを分類、それぞれの内容を明確にして頂いた事が有益でした。
- ・グループで行う事、受講者との考えや聴講する力を学んだ。
- ・カウンセラーとコーチの差は？
- ・非常に難しかった気がしました。ただ、他競技の指導者の方の生のお話が聞けたことは今後の指導に役立つと思いました。
- ・傾聴が印象に強く残った。
- ・ティーチングとコーチングの違い・質問の仕方
- ・コミュニケーションの方法のスキルアップを具体的に受けて参考になった
- ・今まで、上意下達の師弟関係の中で育ってきた競技者として、コーチングではなくティーチングをしていた事がわかった。今後ティーチングからコーチングに転換すべきであると感じた。
- ・コーチングには技術が必要なことがよくわかった。
- ・もっと話の裏側を理解してそれぞれコミュニケーションをとるように心掛けたいと思いました。
- ・コーチングはアドバイスではなく、じっくりと聴いて本質も見抜き正しい方向性で導いてゆくこと。
- ・実際に他競技の方の想いを感じる事が出来たことで、生徒との対話の仕方に役に立つと思います。

<意見>

- ・競技者でコーチになる人には、是非覚えてもらいたいです(午前の内容もそうですが)
- ・指導者の難しさが深まりました。
- ・今日は北島康介さんのコーチもいらっしゃいましたので、そういうベテラン方の指導話などを聞きたかったです。
- ・改めて選手の気持ちを考えて引き出すことの大切さを学びたい。
- ・人間力の向上を目指す指導法をお願いしたい。
- ・もう少し、時間をかけて講義を受けたいと思いました。できる事ならもう一コマあってもいいのではないのでしょうか？大変有意義な研修であったと思います。
- ・午前中の講義と同様で、指導者養成講習会でも取り入れてみたい内容だと思いました。



7) まとめ

アクティブ・ラーニングは一方向的な講義形式(伝達講習)より深く理解できると回答した受講者が多かった。

また、(資格を取得した際は)教科書にそって内容説明を受けていたため、受講していた感が強く、テストがあるので受講したという印象をもっていたようだが、今回のアクティブな講習受講形態は自主体験を伴うことで強い印象を残すことができたようだ。

一方で、アクティブ・ラーニングを行うには時間足りず、講師が早口になり、語られていることが理解できず、頭に染み込む間がなく先へ進む為、身につくか不明であるとの課題も挙げられた。

さらに、グループワークもメンバーの習得状況によって大きく違うため、講習会の内容を理解した後にアクティブ・ラーニングでその内容を充実させるという2段階で学ぶ方法が重要であることが示唆された。

(2) ヒアリング調査

1) 調査目的

ワーキングチームにて取りまとめたカリキュラム案の内容について説明・ヒアリングを行い、体育系大学等が導入・実践するうえでの課題等を確認するとともに、導入に際しての理解および協力を得る。

2) 調査対象者(8名)

- ① 友添 秀則 氏 (早稲田大学スポーツ科学部学部長)
- ② 萩原 智子 氏 (日本水泳連盟理事)
- ③ 小林 勝法 氏 (全国大学体育連合理事長)
- ④ 尾縣 貢 氏 (日本陸上競技連盟専務理事)
- ⑤ 藤田 紀昭 氏 (日本障がい者スポーツ協会技術委員会副委員長)
- ⑥ 加納 實 氏 (順天堂大学スポーツ健康科学部学部長)
- ⑦ 久木留 毅 氏 (国立スポーツ科学センター)
- ⑧ 勝田 隆 氏 (日本スポーツ振興センタースポーツ開発事業推進部長)

3) 調査期間

平成 27 年 12 月 14 日～25 日

4) 調査方法

「モデル・コア・カリキュラム(案)」、「カリキュラム表」、領域ごとの講義の概要(ねらい・目的)、到達目標、キーワード、講義の進め方等をまとめた「教育目標ガイドライン」について説明し、インタビューおよび評価票による書面調査を行った。

5) まとめ

- グッドコーチに求められる資質能力とキーワードに基づく科目の構成については、時間配分等の課題は残るものの、「人間力」と「知識・技能」の 2 区分でカバーする領域、内容については概ね妥当であるとの評価を得た。
- カリキュラムの導入については、アクティブ・ラーニング形式での実施、既存の授業科目での読み替えがある程度可能である点について一定の評価を得た。一方、時間的な問題、特に「人間力」の分野における講師の確保、アクティブ・ラーニング形式での実施に係る教材の準備、評価方法などが課題として挙げられた。
- これらの点については、設問別評価平均の結果において、「人間力」の区分に比べて「知識・技能」の区分が全体的に高い数値を示していることから明らかであり、トライアル授業等による効果的な実施、導入方法について今後検討が必要であるといえる。

(調査結果については次ページ以降参照)

「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム案 作成の基本的な考え方」について、率直なご意見をお聞かせください。
ご意見

	<p>グッドコーチは、グッドコーチと理解していますが、日本語としてのコーチは「コーチング」の意味も含むので、この違いを少し触れておく必要があるかとも思います。「思考」は「思考・判断」ではないでしょうか。コーチングとはどういうことか、現在のコーチング科学の成果を学ぶところが無いように思えます。</p> <p>理念・哲学をコアに、そしてその外側に人間力を置く考え方は、新しいコーチングを構築した上で妥当である。</p> <p>医学科学の活用はコーチングにとって重要なことではあるが、人間力のあるコーチが活用してこそ効果をあげることができる。</p> <p>思考⇒指導理念、哲学、3領域と内訳○、構造図○、時間配分△</p> <p>とても解りやすく精査されている。指導者にとって、コミュニケーション能力が一番重要な要素だと思います。</p> <p>コミュニケーションスキルをどうスキルアップできるかによって指導能力が変わってくると思う。ハラスメントの撲滅にも繋がっていく大事なポイントだと思う。</p> <p>人口が減少していく日本においてスポーツ人口を増やしていくためには、これまでのようにスポーツの得意な人や好きな人や好きな人だけを相手にしてはいけない。その意味で、運動の苦手な人、高齢者や障害者など、どのような人でも受け入れていこうとする心的態度が今後の指導者には必要だと思われる。そうした態度を学ぶ科目が必要。</p> <p>最初に全体像が理解できる科目を置くべきである。</p> <p>あらゆる面において必要とされる項目が網羅されており、十分な内容であると思う。</p>
2	<p>時間を増やすと大学のカリキュラムの中に位置づける事は難しいと思うが、これでは時間があまりにも少ないと感じる。</p> <p>また、専門の教員が揃っている大学は問題はないが、規模の小々な大学では、これだけ広範囲にわたる授業を行うことは難しいのではないかと。</p> <p>2単位○、既存科目との読み替え可能○、+読み替えのためのチェック表</p> <p>15回と言う短い期間で基礎編であっても網羅できるのか、それだけが心配。</p> <p>大学等への導入について、とりわけ哲学、倫理学、社会学的な分野の講義をきちんとできる教員が、どの大学にもいるとは限らない。</p> <p>共通の学びとするための工夫、ネット授業やDVDによる授業テキストの作成を考えてもよいと思う。</p> <p>また、グループワークやディスカッションの適切なテーマや答えの例を、何らかの形で示す必要があると思う。</p> <p>全体案として、既存の制度を踏襲することを前提として考えた場合、特に大きな問題点はないと思われる(ただ、理想的かどうかは別である)。</p> <p>本学においてもスポーツコーチング総論という授業を開講しており、前半を基礎的な内容としている。</p> <p>また、本学の特色を生かして、オリンピックやスポーツマネジメントの専門家、統計の専門家も配している。</p> <p>受講者の数、教室の問題からアクティブ・ラーニングが少々困難であるが、ぜひ検討したい。</p> <p>アクティブ・ラーニングは指導方法の総称ですが、具体的な指導形態、指導目標、学習内容との一貫性や指導方略はどこかで示したほうがよいように思います。</p>
3	<p>アクティブ・ラーニングを効果的に進めるのはかなり難しいと考える。リーダー的な学生がいない場合には、消極的な雰囲気での授業になってしまう。</p> <p>また、現場実習は、実習指導および評価ができる指導者が受け入れ先にいることが条件であると言える。</p> <p>コンピテンシー◎+テスト問題開発、+アクティブ・ラーニングの具体的方法、現場実習◎+ワークシート、評価票</p> <p>現場での実習について、とても良いと思う。それぞれが学ぶ大学等で強化育成クラブなどの強化部の協力を得て行うことで、よりリアルな経験が出来ると思う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの考え方を全体に取り入れていく点は評価できる。</p>

思考(理念・哲学)「コーチングの理念・哲学」		平均	コメント
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3.71	(「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います) <ul style="list-style-type: none"> ・学びの順次性からいえば、「スポーツの意義と価値」が最初に来た方がよいように思います。 ・内容的には良い ・重点をもっと置いたほうが良い。省察の機会を多く持つ。 ・誰が講師を行うのかが、最大のポイントと考える。
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.29	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な議論をする時間がない ・ALを多用して時間数増やす ・代替案は出せませんが、詰め込み過ぎていて、時間内に出来るのか？と思った。
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	3.14	<ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたっては十分な説明が必要かと思えます。 ・知識ではなく、考え方であるので、評価が難しい ・AL手法を明示すれば可能 ・講義の進め方(参考)とあるが、もっと具体的な例を挙げた方が現場はやりやすいのではないかと思った。 ・理念についてきちんと講義できる教員がいるとは限らない、上に書いたとおり、テキストやDVD、ネットによる講義などが必要ではないか。特にスポーツ宣言など十分に理解できていない教員も多いと思われる。(スポーツ目的論に基づくスポーツの価値など)
		3.38	

態度・行動(人間力)「対自分」		平均	コメント
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3.71	(「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います) <ul style="list-style-type: none"> ・内容には、実施可能性の点から、もう少し検討が必要かと思えます。授業サンプルを作成する、あるいは指導案が必要かと思えます。 ・キャリアデザインO、ポジティブシンキング ・人間力という抽象的な言葉を、どの様に説明していくのか難しいと考える。
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.29	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な議論をする時間がない ・ALを多用して時間数増やす ・重要なコミュニケーションは、もっと時間をとって行った方が良いかと思つた。現場実習でも良いと思う。
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	3.14	<ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたっては十分な説明が必要かと思えます。また、このパートは教えることが極めて難しく、教える側にかたりの力量が必要となると思います。 ・知識ではなく、考え方であるので、評価が難しい ・AL手法を明示すれば可能 ・グループワーク等における適切な事例や課題提供またそれに対する適切な答えが提供できるかどうか心配である。グループワーク時の課題や適切な答えの事例などを、何らかの形で示しておくべきではないかと思われる。 ・人間力を講義できる講師が大学にいるのかが疑問である。
		3.38	

態度・行動(人間力)「対他者」		平均	コメント
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3.57	(「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います) <ul style="list-style-type: none"> ・授業サンプルを作成する、あるいは指導案が必要かと思えます。 ・コミュニケーションはどのように進めていくのだろうか？ ・△「コミュニケーション」、「人的環境」⇒関係者との信頼関係 ・人間力という抽象的な言葉を、どの様に説明していくのか難しいと考える。
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.71	<ul style="list-style-type: none"> ・実習形式を含むので時間数は必要かと思えます。 ・時間が少ない
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	3.43	<ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたっては十分な説明が必要かと思えます。 ・教える教員の能力が求められつつである ・AL手法の明示 ・「コミュニケーション」に関して伝えるべき内容は理解できるが、実際の授業等を想定するとどのように進めるべきか難しい部分があるように感じる。 ・人間力を講義できる講師が大学にいるのかが、疑問である。
		3.57	

スポーツ知識・技能「トレーニング科学」		平均	コメント
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	4.14	<p>(「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)</p> <p>このパートは現時点でほとんどの大学が講義や実習を行っているので、大きな問題はないと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の授業でも教えられてきたことである ・考え方や理論体系)⇒計画・評価 ・やや少ない感はある ・9h→8h ・特に問題はない
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.86	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思えますか？	4.00	
		4.00	
スポーツ知識・技能「スポーツ医・科学」		平均	コメント
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	4.29	<p>(「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)</p> <p>このパートは現時点でほとんどの大学が講義や実習を行っているので、大きな問題はないと思います。但し大学等によって、スタッフ等で格差が一番あるように思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の授業でも教えられてきたことである。アンチドーピングについては、多めの時間を取る必要がある。 ・やや少ない感はある ・9h→8h ・特に問題はない
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	4.00	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思えますか？	4.14	
		4.14	
スポーツ知識・技能「現場における理解と対応」		平均	コメント
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3.71	<p>(「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)</p> <p>内容は興味深い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・+PDCA、+民間スポーツクラブ、スポーツクラブ ・「プレーヤーの特性に応じたコーチング」欄に、女性とスポーツとあるが、女性とスポーツは科目名に取り上げるべき項目だと思う。これからは女性の体について、男女問わず指導者が理解する必要がある。 ・やや時間が少ない ・6h→8h ・障害者の場合、内容が非常に多様である。すべての障害について細かく説明しないとしても時間数としてやや少ないような気がする。 ・特別な知識・経験を持った教員が必要となる。 ・障害者のスポーツに関しては体育教員養成系の大学の半数の大学で授業が開設されていない。適切な授業やグループワークでの事例提供が可能かどうか心配である。
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.71	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思えますか？	3.57	
		3.67	
実習(現場実習)「コーチングの実践と評価」		平均	コメント
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3.57	<p>(「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)</p> <p>やるべきことをもう少し詳細にする必要があるのではないかと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義のほとんどの内容をカバーすべき ・現場実習は、普段の練習等の現場もいいが、大会等を含めて実習することも大きいと思う。障がい者スポーツ体験だけではなく、障がい者スポーツの指導現場も実習機会として考えてみてはどうか。 ・適当である ・7日間の時間数は？ ・それぞれの実習現場に指導出来る指導者がいるかが問題である ・ワークシートと評価シートが必要
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	4.00	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思えますか？	3.71	
		3.76	

ヒアリング調査 設問別評価平均

= 評価最上位および最下位

		Q1: 資質能力を習得できるか?		Q2: 時間数は適切か?		Q3: 大学での導入はスムーズか?	
		平均	順位	平均	順位	平均	順位
思考(理念・哲学)	「コーチングの理念・哲学」	3.71	(3)	3.29	(6)	3.14	(6)
態度・行動 (人間力)	「対自分」	3.71	(3)	3.29	(6)	3.14	(6)
	「対他者」	3.57	(6)	3.71	(5)	3.43	(5)
スポーツ 知識・技能	「トレーニング科学」	4.14	(2)	3.86	(3)	4.00	(2)
	「スポーツ医・科学」	4.29	(1)	4.00	(1)	4.14	(1)
	「現場における理解と対応」	3.71	(3)	3.71	(4)	3.57	(4)
実習(現場実習)	「コーチングの実践と評価」	3.57	(6)	4.00	(1)	3.71	(3)
		3.82		3.69		3.59	

(3) ICCE へのヒアリング調査

1) 調査目的

ワーキングチームにて作成したカリキュラム内容について、実現可能性や効果的な教育手法等について評価および検証し、国際的に通ずるカリキュラム、国際コーチングエクセレンス評議会 (International Council of Coaching Excellence; 以下「ICCE」という。) 会長の John Bales (以下、「ジョン・ベールズ」という) 氏に対して、2 回にわたりヒアリング調査を行った。

2) 調査期日

①平成 28 年 2 月 14 日(日)

②平成 28 年 2 月 24 日(水)

3) 調査場所

①日本体育大学世田谷キャンパス(東京都世田谷区深沢 7-1-1)

②日本体育協会(東京都渋谷区神南 1-1-1)

4) 調査対象者

ICCE 会長 ジョン・ベールズ氏

5) 調査者

モデル・コア・カリキュラム作成ワーキングチーム

座長 土屋 裕睦氏(大阪体育大学体育学部教授)

委員 伊藤 雅充氏(日本体育大学児童スポーツ学部准教授)

6) 調査方法

ワーキングチームにて作成したカリキュラムを英訳し、ジョン・ベールズ氏に示しながら説明を加えながらヒアリングを行った。

7) モデル・コア・カリキュラム英訳版

ジョン・ベールズ氏にヒアリングを行うにあたり、作成したモデル・コア・カリキュラムの英訳版は、以下のとおりである。

Areas	Elements	Major contents	Hours			
			Fundamental	Advanced	Total	
Core Qualities	Mindset Decision making	Understanding coaching	Learning coaches with leaning players	9.0h	9.0h	18.0h
			What is coaching/coach ?			
			What makes a good coach			
			Value of sports			
			Coaching ethics			
			Coaches' functions and skills			
	Subtotal			9.0h	9.0h	18.0h
	Attitude Behavior	Intrapersonal Knowledge	Various ways of thinking	6.0h	9.0h	15.0h
			Self control of coaches			
			Career design of coaches			
Interpersonal Knowledge		Communication	6.0h	9.0h	15.0h	
		Building relationships				
		Career design of players				
Subtotal			12.0h	18.0h	30.0h	
Professional Knowledge and Skills	Common	Training Sciences	Fundamentals of sports training and	9.0h	6.0h	15.0h
			Physical Training			
			Skill Training			
			Mental Training			
	Sport Medicine & Sciences	Sports and Health	9.0h	15.0h	24.0h	
		Injury prevention				
		Emergency first aid				
		Anti-Doping				
		Sports and Nutrition				
	Sport Psychology					
	Context specific	Reading context and react	Coaching at various life stages	6.0h	18.0h	24.0h
			Coaching individuals			
			Risk management			
Running a team/club						
Characteristics of coaching fields						
Subtotal			24.0h	39.0h	63.0h	
Total			45.0h	66.0h	111.0h	
Practice	Practicum	Coaching and Assessment	minimum 5 days (10h)			

8) 調査結果

ジョン・ベールズ氏に対して行ったヒアリング調査について、同氏の意見を以下に示す。

【評価された点】

- ・ 資質能力区分の人間力である「思考・判断」、「態度・行動」に関する科目を、モデル・コア・カリキュラム全体の34%としたのは、日本のコーチ育成教育の大きな改革である。
- ・ 資質能力区分の「知識・技能」に関する科目についてもコーチにとって必要な科目である。
- ・ 大学において半期15コマ(45時間)で履修できるように構成されており、導入しやすい。
- ・ 「思考・判断」のコーチング理念・哲学領域ではコーチングを理解することから学ぶようになっており、主な内容にあるコーチングとは、コーチとは、スポーツの価値、コーチングの倫理、コーチに求められる資質能力などは、ICCEのスポーツコーチングに関する国際枠組み(International

Sport Coaching Framework; ISCF)に対応している。

- ・「思考・判断」、「態度・行動」については、科目間で縦断的に取り扱うように工夫されている。
- ・「態度・行動」の対自分、対他者領域において、コーチやプレーヤーのキャリア・デザイン、コミュニケーションスキル、人的環境の構築について取り入れられている。
- ・現場実習については、教育実習期間中に学校運動部活を活用するなど機会がある。
- ・コーチに求められるスキルやコンピテンスを踏まえており、バランスもとれたカリキュラムとなっている。
- ・大学での導入についてはコアとなる科目と評価基準を検討できる内容となっている。
- ・大学で学んでいるコーチの存在は実習の場となる学校にとって大きな財産になる。

【指摘された課題】

- ・コーチディベロッパーをどのように養成するのか、人材をどのように確保するのが次の課題。
- ・現場実習をどのように評価するか。
- ・アクティブ・ラーニングを展開することに慣れた講師が少ないはずで、コーチ用のテキスト以外に、講師用の教本が必要となるだろう。
- ・最も基本的なプログラムでは5日間の現場実習は妥当だが、発展的なプログラムでは中長期的な経験を積ませることも必要ではないか。
- ・競技団体が実施する各競技の専門科目と内容が重複しないよう、また、アクティブ・ラーニングを基本とした展開が全体で可能になるよう、早い段階で各競技団体にこのカリキュラムを示してもいいのではないか。
- ・制度改定には、関係団体・機関と協力しながら長期的計画で取り組む必要がある。
- ・カリキュラム内容も重要だが、コーチングスキルを向上させる学び方が重要である。
- ・思考・判断、態度・行動などの資質能力区分に限らず、コーチングスキルを向上させる教材と教授法を発展させる必要がある。

9) まとめ

ワーキングチームにて作成したカリキュラム内容について、ジョン・ベールズ ICCE 会長にヒアリング調査を行った結果、その内容は概ね高評価であり、国際的な指標でもある ICCE の ISCF にも対応していることを確認することができた。

今後はこのカリキュラムを全国の大学や日本体育協会のコーチ養成カリキュラムに取り入れていくために、コーチディベロッパーの人材確保とその養成や、アクティブ・ラーニングのための教材などの必要性が課題である。

(4) 日本体育学会会長へのインタビュー及び書面調査

1) 目的

ワーキングチームにて作成したカリキュラム表及び教育目標ガイドラインについて、その基本的な考え方、科目の構成、体育系大学への導入の実現可能性、効果的な教育手法等について検証することを目的に一般社団法人日本体育学会阿江通良会長に対し面談によるインタビューと書面調査を行った。

2) 調査期間

平成 28 年 1 月 8 日

3) 調査対象

一般社団法人日本体育学会会長 阿江通良氏

4) 調査方法

面談によるインタビュー及び書面調査

5) 調査結果

<カリキュラム(内容・時間数など)について>

- カリキュラムと教育目標ガイドラインは概ね問題ないと感じたが、全体的に教育学的な視点に乏しいという印象。
- 教育学部等での展開を考えるとときには、例えば教職教養科目などを思考・態度・行動の関連科目と読みかえ可能にすることを視野に入れてもよいのではないか。
- 態度・行動(思考法)に「PDCA サイクル」を入れておくべき。
- メディア対応や情報収集・分析能力(スポーツインテリジェンス)に関連する内容が欠けている印象。
- トレーニング科学とスポーツ医・科学については、カリキュラム案の倍くらいの時間が必要。
- 時間数配分とも関連するが、基礎科目と応用科目の軽重をつけるべきではないか。

<大学への導入(授業の展開)について>

- 現状の科目名をベースとする読み替えは難しい。
- カリキュラムの対応度合いをチェックする評価表などが必要になると思われる。
- 主要な大学の導入(読みかえ)事例などをモデルとして公開してはどうか。

<学びの特徴>

- アクティブ・ラーニングは、考えているほど容易ではない。すぐれた教科書や情報源が必要になる。
- 実習を実施する場をどう確保するか。その評価をどのように行うか。

日本体育学会(阿江会長)へのヒアリング

「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム案 作成の基本的な考え方」について、率直なご意見をお聞かせください。

ご意見	
1	<p>科目の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名とはいえない。指導内容ではないのか。 ・メディア対応が必要。 ・情報収集・分析能力(スポーツインテリジェンス)をどう見につけるかが欠けている。 ・教育的視点が弱い。
2	<p>導入に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案された科目名では読み替えは難しい
3	<p>学びの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングは考えているほど容易ではない。優れた教科書や情報源が必要である。

思考(理念・哲学)「コーチングの理念・哲学」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いませんか？	3	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思えますか？	2	対応が難しい。対応表が必要。

態度・行動(人間力)「対自分」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いませんか？	3	PDCAサイクルについて触れる。
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思えますか？	2	対応が難しい。対応表が必要。

態度・行動(人間力)「対他者」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	2	対応が難しい。対応表が必要。

スポーツ知識・技能「トレーニング科学」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	2	この倍は必要。
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	2	対応が難しい。対応表が必要。

スポーツ知識・技能「スポーツ医・科学」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	2	この倍は必要。
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	2	対応が難しい。対応表が必要。

スポーツ知識・技能「現場における理解と対応」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	2	この分野の授業科目は少ない。読み替えの工夫。

実習(現場実習)「コーチングの実践と評価」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	3	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	2	実習を行う場をどう確保するか。

(5) 全国体育系大学学長・学部長会への書面調査

1) 目的

ワーキングチームにて作成したカリキュラム表及び教育目標ガイドラインについて、その基本的な考え方、科目の構成、体育系大学への導入の実現可能性、効果的な教育手法等について検証することを目的に全国体育系大学学長・学部長会加盟校に対し書面による調査を行った。

2) 調査期間

平成 27 年 12 月 14 日～平成 28 年 1 月 15 日

3) 調査対象

全国体育系大学学長・学部長会加盟 27 校

4) 調査方法

郵送による書面調査

5) 調査結果

次ページ以降を参照

6) まとめ

- グッドコーチに求められる資質能力を「思考、態度・行動、知識・技能」で構成したことは高い評価を得た。
- ICCE が作成した ISCF (スポーツコーチングに関する国際枠組み) の内容にも合致しており非常によく整理できている。
- 科目を細分化せず大枠で区分しており大学でのカリキュラム導入に配慮されている。
- アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることは評価するが、実際には多数の学生を対象にする場合などがあり、効果については疑問が残る。
- 現場実習について、部活動に加入しない学生などの実習先の確保は課題。

全国体育系大学学長・学部長会加盟校への調査

「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム案 作成の基本的な考え方」について、率直なご意見をお聞かせください。

ご意見	
1	<p>科目の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチに求められるコンピテンシーをICCEの提唱する内容との検討から、「理念・哲学」を「思考と判断」に、「コーチングの実働・人間力」を「態度・行動」に、そして「成長段階、競技レベル、障害の有無」を考慮した「専門性の知識と技能」と共通する「スポーツ科学の知識」と非常によく整理されている。 ・大変素晴らしい構成であります。特にグッドコーチに求められる資質能力「思考・態度、行動、知識、技術の構成は良かったと思います。 ・ワーキングの方々の御努力によりかなり充実した内容になったと思います。ほとんどの事が網羅されていると思います。 ・グッドコーチになるまでの多くの経験と人間力は忘れてはならない資質能力であり、専門の指導現場にあたる。 ・「スポーツ医・科学」「スポーツの心理」の中に「性格」が主な内容として入っているが、取り扱いが難しいように思われる。 ・コーチング教育に必要な大部分を網羅している構成であり、質保証の観点からも評価できる内容と考える。ただし、これらの内容を28回(実習含む)の授業で深く展開しきれないかは疑問が残る。上滑りとなり、学生の理解が乏しいままに進む可能性が懸念される。 ・わかりやすく整理されており、高く評価できます。 ・コーチングのみならず、哲学やスポーツ史などのほか、コーチのワークライフバランスなど、コーチ自身のことも見つめる機会が盛り込まれていて、バランスは良いと思う
2	<p>導入に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学でのカリキュラムへの導入に対する配慮が評価できる。科目名の細分化を避けて大枠での属性区分をしているが、2区分の細目側がやはり科目名と捉えられる。提案として、左側の大別を適当な「項目」あるいは「分野」とし、細目の科目名を「単元」としてはどうだろうか。 ・既存の内容と比較して時間数は、適当であると思われる。ただし、基礎編と応用実践編で同様な科目・単元立てをすること、また、その学習時間数の根拠は再考の余地がありますまいか。 ・体育学部・スポーツ関連学部においては、すでに開設されている「スポーツ医学系科目」の基本的な一部と、「コーチング(技術トレーニング含む)」、「トレーニング医学系科目」、「スポーツ心理学」で読み替えできる。スポーツに関連しない学部学科においては、「コーチ養成科目」として提示された45時間以上(15時間以上×3科目など)をカリキュラムに配置するか判断次第である。 ・体育系大学以外では課題が多いのではないかと思います。人材の育成特に思考、態度、行動を担当する者の育成。 ・指導者の経験値が問われ、また、授業の進行が激しい面もあるかと思えます。特に内容によっては到達目標のポリシーームが多いように思いました。半期15回2単位で設定されておりますが、導入初年度は難しいかと思われました。 ・基礎編の半期15回の授業で単位取得可能とすることは必要 ・応用実践編の時間数の目安や科目の読み替えについては各大学によって異なるため難しい ・基礎編においては、何らかのモデルを示すと良いのではないだろうか ・応用実践において、本学では偏りが大きいと思われませんが、それでも本学としての判断でよいのでしょうか(既存授業科目の読み替え) ・柔軟な対応が必要になると思われます。必要最低時間数のしぼりが強すぎるかもしれない。 ・体育・スポーツ系の学生以外を対象とした基礎編の導入実施をしっかりと具体化する必要を感じます。 ・それぞれの大学の状況によると思うが、相当数の内容を既にカリキュラムでカバーしている場合は、まだ導入されていないものを授業科目の中で扱いを増やす形で対応するなどして導入をはかれればと思う。哲学は専門的に教えられる人が少ないのでは。

	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの活用と現場実習は評価できる。この学習を通して、「学び続ける態度」[PDCA]の実践も表記されることを期待する。 ・コーチ育成に特化したカリキュラムとして取り入れられる難しさがあります。学生のニーズが多様であること、その学生に対し各科目で広範な内容を講義する必要があることなどが理由です。 ・アクティブ・ラーニングの導入は良かったと思います。 ・講義とグループディスカッションを基本に進める形で展開されるのであろうと思いましたが、内容によっては一流選手の活動現場、JISS等の見学が必要になると言う意味では、これまでにない授業として評価できると思います。 ・大切なことであるが、完成には苦労する(難しいところもある) ・「講義」とは、狭義には「教師による一方的な説明を中心とした授業」と解されますので、できればその言語は避けたい ・文科省においてもアクティブ・ラーニングが推奨されており、それを中心とした講義との理念は理解できますが、現場レベルでアクティブ・ラーニングを実施するには学生数が多く、すぐに導入するには検討事項が多くなることが予想されます。 ・アクティブ・ラーニングがそれほど一般化しているとはいえないので、注意深く対応する必要がある。 ・現場実習については、実習の場の問題が生じると考えられる。少人数の受講生を対象とするならば、受け入れ先の獲得に苦労はないであろうが、仮にこれを必修授業とした場合、専門科目を持たない(部活動未加入)学生の問題を含め、検討課題が残されると考えられる。 ・時間数について、明確に規定された内容であっても、その授業形態(指導方法と学習方法)の違いが、知識の理解と習得される技能に差が生ずる。アクティブ・ラーニングによる講義と、現場実習の質に大きく依存する問題がある。逆に既存の方法と時間数を考慮すると適当であると思われる。 ・現場での学び、主体的な学び(アクティブ・ラーニング)をしっかり支援できれば良いと思います。 ・アクティブ・ラーニングを多く取り入れているので、実践的に学ぶことができる。
3 学びの特徴	

思考(理念・哲学)「コーチングの理念・哲学」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	4.71	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.86	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば時間をもっと必要 ・応用実践は6.0h
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	3.71	・本大学では問題ないが、体育系以外の大学では課題が多いですかね
		4.10	
態度・行動(人間力)「対自分」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	4.36	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.64	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば時間をもっと必要 ・応用実践は6.0h
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	3.36	・本学カリキュラムでは該当する科目が少ないため、2にしました。必要に応じてカリキュラムを見直します。
		3.79	

態度・行動(人間力)「対他者」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていますか？	4.29	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば時間ももっと必要 ・応用実践は6.0h ・対他者「コミュニケーション」において主な内容に「プレゼンテーション」とあるが、充実した内容を求めるならば時間不足と考えられる。 ・コーチの学びとしては良いが、もっと発展させられる方法について考えておく必要がある ・本学カリキュラムでは該当する科目が少ないため、2にしました。必要に応じてカリキュラムを見直します。
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるに当たり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.57	
Q3	大学等での導入はスムーズにできますか？	3.50	
		3.79	
スポーツ知識・技能「トレーニング科学」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていますか？	4.57	<ul style="list-style-type: none"> ・体育系大学は問題ない ・「体力」「技術」「メンタル」を各1回の授業で展開するのはかなり困難と考えられ、記されている到達目標は達成できないであろう。時間数の増加が必要と考えられる。 ・指導者の指導技術にもよると思われる。
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるに当たり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.86	
Q3	大学等での導入はスムーズにできますか？	3.79	
		4.07	
スポーツ知識・技能「スポーツ医・科学」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていますか？	4.36	<ul style="list-style-type: none"> ・過呼吸や貧血など内科的症状への救急処置も必要と思います。 ・コーチの学びとしては良いが、もっと発展させられる方法について考えておく必要がある。 ・「トレーニング科学」同様、各々を1回の授業で展開するのは困難であり、到達目標は達成できないと考えられる。時間数の増加が求められる。 ・到達目標が厳しいかと思えます。
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるに当たり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.86	
Q3	大学等での導入はスムーズにできますか？	3.79	
		4.00	
スポーツ知識・技能「現場における理解と対応」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていますか？	4.50	<ul style="list-style-type: none"> ・コーチの学びとしては良いが、もっと発展させられる方法について考えておく必要がある
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるに当たり、設定された時間数は適切だと思いますか？	3.86	
Q3	大学等での導入はスムーズにできますか？	3.64	
		4.00	

実習(現場実習)「コーチングの実践と評価」		平均	コメント (「1」または「2」の場合は代替案についてもお示し願います)
Q1	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を習得できる内容になっていると思いますか？	4.64	
Q2	グッドコーチに求められる資質能力(思考・態度・行動・知識・技能)を身につけるにあたり、設定された時間数は適切だと思えますか？	4.14	
Q3	大学等での導入はスムーズにできると思いますか？	3.71	<ul style="list-style-type: none"> ・体育系大学は問題ないと思います。実習先の確保が課題。 ・指導現場との連携が必要になる。 ・実習の受け入れ先の獲得に問題が残されるところ。
		4.17	

全国体育系大学学長・学部長会加盟校への調査 設問別評価平均

= 評価最上位および最下位

		Q1: 資質能力を 習得できるか?		Q2: 時間数は 適切か?		Q3: 大学での導入は スムーズか?	
		平均	順位	平均	順位	平均	順位
思考(理念・哲学)「コーチングの理念・哲学」		4.71	(1)	3.86	(2)	3.71	(3)
態度・行動 (人間力)	「対自分」	4.36	(5)	3.64	(6)	3.36	(7)
	「対他者」	4.29	(7)	3.57	(7)	3.50	(6)
スポーツ 知識・技能	「トレーニング科学」	4.57	(3)	3.86	(2)	3.79	(1)
	「スポーツ医・科学」	4.36	(5)	3.86	(2)	3.79	(1)
	「現場における理解と対応」	4.50	(4)	3.86	(2)	3.64	(5)
実習(現場実習)「コーチングの実践と評価」		4.64	(2)	4.14	(1)	3.71	(3)
		4.49		3.83		3.64	

(6) 評価・検証のまとめ

上記(1)から(5)による評価・検証作業により、評価できる点と指摘された課題に分けてまとめると下記のとおりとなる。

	評価できる点	指摘された課題
科目の構成	<ul style="list-style-type: none"> • コーチに求められるコンピテンシーを ICCE の提唱する内容との検討から、「理念・哲学」を「思考と判断」に、「コーチングの実働・人間力」を「態度・行動」に、そして「成長段階、競技レベル、障害の有無」を考慮した「専門性の知識と技能」と共通する「スポーツ科学の知識」と非常によく整理されている。 • コーチング教育に必要となる大部分を網羅している構成であり、質保証の観点からも評価できる内容と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> • これらの内容を 28 回(実習含む)の授業で深く展開されるかは疑問が残る。上滑りとなり、学生の理解が乏しいままに進む可能性が懸念される。 • 時間を増やすと大学のカリキュラムの中に位置づける事は難しいと思うが、時間があまりにも少ないと感じる。 • 基礎編(15 回と言う短い期間)でこの内容が網羅できるのか心配。
導入に向けて	<ul style="list-style-type: none"> • 科目名の細分化を避けて大枠での属性区分をしている点で、大学でのカリキュラムへの導入に対する配慮が評価できる。 • 既存の内容と比較して時間数は、適当であると思われる。 • 体育学部・スポーツ関連学部においては、すでに開設されている「スポーツ医科学系科目」の基本的な一部と、「コーチング(技術トレーニング含む)」、「トレーニング医科学系科目」、「スポーツ心理学」で読み替えできる。 • 基礎編の半期 15 回の授業で単位取得可能とすることは必要。 	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎編においては、何らかのモデルを示すと良いのではないか。 • 専門の教員が揃っている大学は問題はないが、規模の小さな大学では、広範囲にわたる授業を行うことは難しいのではないか。 • 大学等への導入について、とりわけ哲学、倫理学、社会学的な分野の講義をきちんとできる教員がどの大学にもいるとは限らない。 • 共通の学びとするための工夫、ネット授業や DVD による授業テキストの作成を考えてもよいと思う。 • 人材の育成特に思考、態度、行動を担当する者の育成。
学びの特徴	<ul style="list-style-type: none"> • アクティブ・ラーニングの考え方を全体に取り入れている点は評価できる • 現場での学び、主体的な学び(アクティブ・ラーニング)をしっかり支援できれば良い。 • アクティブ・ラーニングを多く取り入れているので、実践的に学ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業形態(指導方法と学習方法)の違いが、知識の理解と習得される技能に差が生ずる。アクティブ・ラーニングによる講義と、現場実習の質に大きく依存する問題がある。 • アクティブ・ラーニングを実施するには学生数が多く、すぐに導入するには検討事項が多くなることが予想される。 • 現場実習は、受け入れ先に、実習指導および評価ができる指導者がいることが条件である。 • 実習の場の問題が生じると考えられる。専門種目を持たない(部活動未加入)学生の問題を含め、検討課題が残される。 • カリキュラム内容の提示ではなく、能力を伸ばすために実際に深く学べること(講義方法)が重要。 • 思考・判断、態度・行動などの新しい項目に限らず、コーチの学んでほしい教材と教授法(問題解決型やグループ型学習法など)を発展させる必要がある。 • 教材などのサポートなしにアクティブ・ラーニングは実施できない。

Ⅲ. 事業の成果

1. モデル・コア・カリキュラムの基本的な考え方

(1) 基本理念

スポーツは、社会の中で行われる活動であり、社会の規範を守り、社会における価値を踏まえたうえで、スポーツの価値そのものを高めていかなければならない。

スポーツ基本法においては「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、楽しみ、支える活動に参画できる機会が確保されなければならない」とされている。

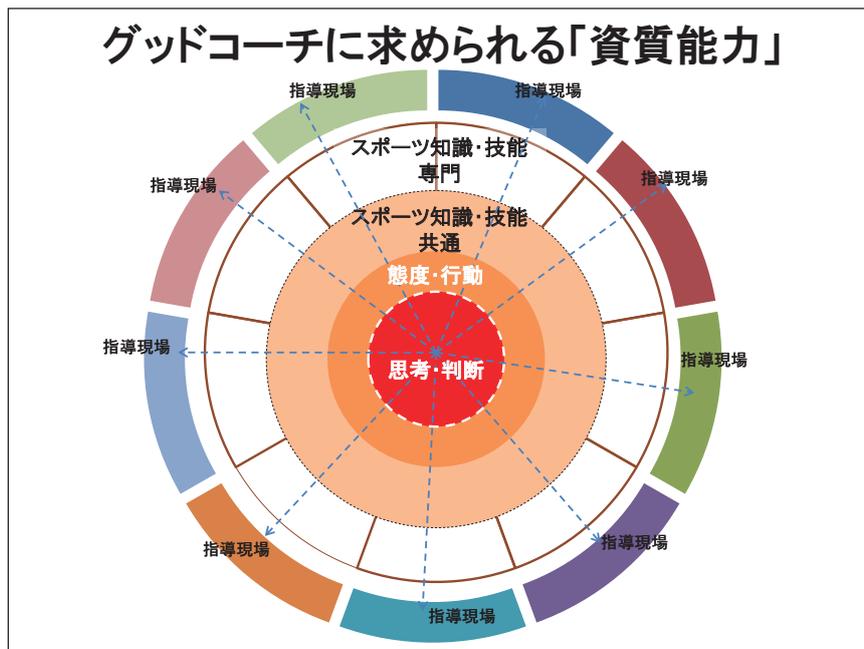
また、平成25年度に文部科学省が設置した「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)」の報告書において、新しい時代にふさわしいコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」とであると定義している。

このような考え方からすると、スポーツ指導者(コーチ)が果たす役割は、単に指導対象者のパフォーマンス向上や健康・体力の維持増進を支えるだけにとどまらず、スポーツを通じた総合的な人間力の向上(人格形成)、さらにはスポーツの意義と価値を守り育て未来へ継承していくという広範囲にわたることが理解できよう。

したがって、スポーツ指導者(コーチ)は、スポーツ科学やスポーツ医・科学の知識・技能を身につけていることはもちろん、それ以前にスポーツの意義と価値を理解した上で、スポーツとは何か、何のためにスポーツ指導をしているのかを常に自分自身に問いかけ、成長し続けなければならないのである。

「グッドコーチに求められる資質能力」とは、思考・判断、態度・行動、知識・技能により形成されるもので、プレーヤーやスポーツの未来に責任を負う上で幹となる思考・判断を中心に、実際のコーチングを適切な方法で表現し良好な関係を築くための態度・行動、あらゆるスポーツコーチングの場面で必要となる知識・技能(共通)と個々のコーチング現場別(競技別、年代別、レベル別、障害の有無など)において必要となる知識・技能(専門)という同心円状の図で表すことができる。

グッドコーチに求められる資質能力 (思考・態度・行動・知識・技能)			
思考・判断: 自分自身のコーチングを形づくる中心にあるもの 態度・行動: プレーヤーや社会との良好な関係を築くために必要な資質能力 スポーツ知識・技能: スポーツ指導を行ううえで必要となるスポーツ科学の知識・技能			
人間力	思考・判断		スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学(人が好き、スポーツが好き、スポーツの意義と価値の理解、プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ、社会規範、スポーツの高潔性)
		態度・行動	対自分力 学び続ける姿勢(自己研鑽)、前向きな思考・行動、くじけない心、課題発見力、課題解決力、自己統制、内省、社会規範 対他者力(人、社会) 基本的人権の尊重、相互理解、プレーヤーズ・ファースト、暴力・ハラスメントの根絶、コミュニケーションスキル、マネジメントスキル、目標設定、協力・協調・協働、長期的視点、関係構築力
知識・技能	スポーツ知識・技能	共通	あらゆるコーチング現場に共通するスポーツ科学
		専門	個々のコーチング現場別(競技別、年代別、レベル別、障がいの有無など)に求められる専門知識・技能



「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム」は、グッドコーチに求められる資質能力(思考・判断、態度・行動、知識・技能)とその資質能力を習得するために学ぶべき内容のキーワードを資質能力区分と領域ごとに分類し、教育目標ガイドライン(講義の概要(ねらい、目的)、到達目標、キーワード、講義の進め方)として提示したものである。

(2) 位置づけ

「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム」とは、多様化・高度化・専門化する体育スポーツにおいて、体育系大学等の学生が卒業後にコーチとして現場に立つことを見据え、コーチに求められる資質能力(思考・判断、態度・行動、知識・技能)を確実に習得するために学ぶべき内容を『教育目標ガイドライン(講義概要(目的やねらい)・到達目標・時間数)』として提示するもので、体育系大学等におけるカリキュラム作成の参考となるものとして位置づけた。

したがって、各大学等における授業科目名や履修順序を指定するものではない。また、各学校が既に定めている授業科目の読み替えや内容の修正、新たな科目として導入する方法などが想定されるが、導入方法については、各学校に委ねることとする。

(3) グッドプレーヤー像、グッドコーチ像

「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム」はグッドコーチに求められる資質能力を身につけるために学ぶべき内容としてまとめている。その取りまとめの過程においては、今後日本スポーツ界が育成すべきグッドプレーヤーとはどのような人物像なのか、そして、そのグッドプレーヤーの育成を担うグッドコーチ像とはどのような人物像なのかを検討し明らかにした。

グッドコーチ育成にあたり、グッドプレーヤー像、グッドコーチ像に関しても一定の共通認識を持つ必要がある。

【グッドプレーヤー像】 日本スポーツ界が育成すべき人物像

グッドプレーヤー像	
人物像	キーワード
スポーツを愛し、その意義と価値を自覚し、尊重できる人	スポーツが好き、スポーツと意義と価値の理解
フェアプレーを誇りとし、自らの心に恥じない態度をとり行動ができる人	フェアプレー
何事に対しても、自ら考え、工夫し、行動できる人	自立、課題解決(創意工夫、実践力)
いかなる状況においても、前向きかつ直向きに取り組むことができる人	逆境・困難に打ち克つ力、ポジティブシンキング、真摯さ、継続性
社会の一員であることを自覚し、模範となる態度・行動が取れる人	社会の中の自己認識、社会規範・モラルの理解・遵守
優しさと思いやりを持ち、差別や偏見を持たない人	同情・共感、公平・公正さ
自分を支えるすべての人々(保護者、コーチ、仲間、審判、対戦相手など)を尊重し、感謝・信頼できる人	相互尊敬(リスペクト)、感謝・信頼
仲間を信じ、励ましあい、高めあうために協力・協働・協調できる人	チームプレー、協力・協働・協調

【グッドコーチ像】 グッドプレーヤーを育成する担い手

グッドコーチ像	
人物像	キーワード
スポーツを愛し、その意義と価値を自覚し、尊重し、表現できる人	人が好き、スポーツが好き、スポーツと意義と価値の理解
グッドプレーヤーを育成することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることができる人	プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ
プレーヤーの自立やパフォーマンスの向上を支援するために、常に自身を振り返りながら学び続けることができる人	課題解決、自立支援、プレーヤーのニーズ充足、卓越した専門知識(スポーツ教養含)、内省、継続した自己研鑽
いかなる状況においても、前向きかつ直向きに取り組みながら、プレーヤーと共に成長することができる人	逆境・困難に打ち克つ力、ポジティブシンキング、真摯さ、継続性、同情・共感、対象に合わせたコーチング
プレーヤーの生涯を通じた人間的成長を長期的視点で支援することができる人	プレーヤーズファースト、プレーヤーのキャリア形成・人間的成長、中長期的視点、
いかなる暴力やハラスメントも行使・容認せず、プレーヤーの権利や尊厳、人格を尊重し、公平に接することができる人	暴力根絶、相互尊敬(リスペクト)、公平・公正さ
プレーヤーが、社会の一員であることを自覚し、模範となる態度・行動をとれるよう導くことができる人	社会の中の自己認識、社会規範・モラルの理解・遵守、暴力根絶意識のプレーヤーへの伝達
プレーヤーやプレーヤーを支援する関係者(アントラージュ)が、お互いに感謝・信頼し合い、かつ協力・協働・協調できる環境をつくることができる人	社会との関係・環境構築、チームプレー、感謝・信頼、協力・協働・協調

2. カリキュラムの構成と時間数

カリキュラムの構成は、グッドコーチに求められる資質能力と骨子で抽出されたキーワードに基づいて構成している。

表の見方としては、縦列に資質能力区分、領域、主な内容、必要最低時間数としている。34ページのⅢ-1「位置づけ」に記載のとおり、体育系大学等での導入の際に、授業科目名や履修順序を指定するものではなく、各学校の裁量に委ねることとしているため、領域と主な内容を示すことで柔軟に対応できるようにした。

資質能力区分は大きく「人間力」と「知識・技能」の2区分に分け、人間力はコーチングを形づくる中心にある思考・判断(コーチングの理念・哲学)と、その理念・哲学に基づいたコーチングを適切に表現するための態度・行動(対自分力、対他者力)とした。

知識・技能は、すべてのスポーツ指導に必要な「共通」と指導対象者や活動現場による「専門」に分けている。

それぞれの領域で学ぶべき主な内容は記載のとおりで、時間数は必要最低時間数として提示した。

必要最低時間数は、大学での導入を念頭に置き、基礎編は45時間。つまり、半期15回の授業で2単位取得できる設定とし、応用実践編はその倍の90時間に設定した。

体育系大学では、基礎・応用実践の総合計135時間を越える授業が設定されていることから、充分に対応できると考え、体育系大学以外でも、応用実践編を導入するのであれば、最低でも通年で授業が行われることとなる。

また、本カリキュラムはあくまでも現場において実践力として発揮することを目的としていることから実習も取り入れることとした。実習は1日2時間換算で、基礎編は5日間10時間以上、応用実践編は20日40時間以上と設定した。

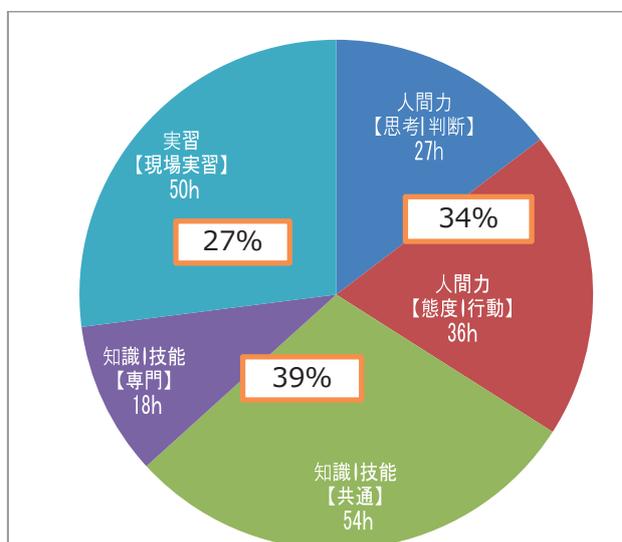
全体の資質能力区分別の時間配分は、人間力が34%、知識・技能が39%、実習が27%となり、コーチとしての実践力を身につけることを重視した大胆な配分になっていることが最大の特徴である。

モデル・コア・カリキュラム

資質能力区分		領域	主な内容	必要最低時間数		
				基礎	応用実践	計
人間力	思考・判断	コーチングの理念・哲学	プレーヤーとともに学び続けるコーチ	9h	18h	27h
			コーチング及びコーチとは			
			コーチに求められる資質能力			
			スポーツの意義と価値			
			コーチの倫理観・規範意識			
			コーチの役割と使命(職務)			
	計			9h	18h	27h
	態度・行動	対自分力	多様な思考法	6h	12h	18h
			コーチのセルフ・コントロール			
		対他者力	コーチのキャリア・デザイン	6h	12h	18h
コミュニケーション						
計			12h	24h	36h	
知識技能	共通	トレーニング科学	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	9h	18h	27h
			体カトレーニング			
			技術トレーニング			
			メンタルトレーニング			
	共通	スポーツ医・科学	スポーツと健康	9h	18h	27h
			外傷と障害の予防			
			救急処置			
			アンチ・ドーピング			
			スポーツと栄養			
			スポーツの心理			
	専門	現場における理解と対応	ライフステージに応じたコーチング	6h	12h	18h
			プレーヤーの特性に応じたコーチング			
			コーチングにおけるリスクマネジメント			
			クラブ・チームの運営と事業			
計			24h	48h	72h	
合計				45h	90h	135h

実習	現場実習	コーチングの実践と評価	5日	20日	50h
			10h	40h	

人間力	思考・判断	27h	63h	34%
	態度・行動	36h		
知識・技能	共通	54h	72h	39%
	専門	18h		
実習	現場実習	50h		27%



3. 教育目標ガイドライン

教育目標ガイドラインは、カリキュラム表に基づき、領域ごとに講義の概要(ねらい・目的)、到達目標、キーワード、講義の進め方としてまとめた。

特徴として、講義の進め方に、効果的な学びをするための「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れている。アクティブ・ラーニングとは、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習のこととされている。

モデル・コア・カリキュラムに基づくコーチ育成は、講義を通じて知識・技能を習得することだけを目的とせず、コーチとしての職務を遂行するために必要な力(コンピテンシー)を身につけることを目的とした。

1. 人間力(思考・判断)

コーチングの理念・哲学「コーチング及びコーチとは」

講義の概要 (ねらい、目的)	<p>コーチングでは、プレーヤーの主体的な学びを発達段階にあわせて支援していくことが重要です。また、それぞれのコーチはより良い社会の形成に寄与するコーチング文化を構築していく一員であることを自覚し、自らの能力開発に対して積極的に取り組んでいく必要があります。</p> <p>本講義は、コーチングの本質について考え、自身のコーチング理念・哲学を確立していくことを目的とします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自らのコーチングの置かれた背景や環境を適切に描写・分析し、その特徴を明確に述べることができるようになる。 他者のコーチングの置かれた背景や環境ではコーチングの仕方が異なることを理解し、自分との違いを明確に述べ、他者のコーチングの優れた点を指摘することができるようになる。 自らが属するコミュニティの中でコーチとしての自分が果たすべき役割について多角的な視点から述べるができるようになる。 時代の変化とともにコーチングも変化が必要であり、自らの経験のみに頼ったコーチングでは限界があることを理解し、修正できるようになる。 自分のコーチング理念・哲学を文章で具体的に表現できる。
キーワード	<p>コーチングとは、コーチとは、コーチング環境、新しい時代にふさわしいコーチング</p>
講義の進め方 (参考)	<p>コーチがプレーヤーの主体的な学びを支援する方法を学ぶのに最も適した方法は、コーチ育成者がコーチの主体的な学びを支援する方法を実践し、コーチがそれを経験することです。そのため、本講義ではコーチが能動的に学べるアクティブラーニングを積極的に取り入れてください。具体例を教材としてグループでディスカッションを行い、その中で他者をリスペクトする態度を養い、グループやクラスというコミュニティで自らが果たすべき責任についての意識を高めます。講義の最後には自らの能力開発に関するアクションプランを作成し、その特長を人に説明できるようにして下さい。</p>

アクティブ・ラーニング

課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習

文部科学省初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について
26 文科初第 852 号 平成 26 年 11 月 20 日 中央教育審議会

コーチ育成のための モデル・コア・カリキュラム

モデル・コア・カリキュラム

資質能力区分		領域	主な内容	必要最低時間数		
				基礎	応用 実践	計
人間力	思考・判断	コーチングの理念・哲学	プレーヤーとともに学び続けるコーチ	9h	18h	27h
			コーチング及びコーチとは			
			コーチに求められる資質能力			
			スポーツの意義と価値			
			コーチの倫理観・規範意識			
			コーチの役割と使命(職務)			
	計			9h	18h	27h
	態度・行動	対自分力	多様な思考法	6h	12h	18h
			コーチのセルフ・コントロール			
			コーチのキャリア・デザイン			
対他者力		コミュニケーション	6h	12h	18h	
		人的環境(関係者との信頼関係)の構築				
		プレーヤーのキャリア・デザイン				
計			12h	24h	36h	
知識技能	共通	トレーニング科学	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	9h	18h	27h
			体カトレーニング			
			技術トレーニング			
			メンタルトレーニング			
		スポーツ医・科学	スポーツと健康	9h	18h	27h
			外傷と障害の予防			
			救急処置			
			アンチ・ドーピング			
			スポーツと栄養			
	スポーツの心理					
	専門	現場における理解と対応	ライフステージに応じたコーチング	6h	12h	18h
			プレーヤーの特性に応じたコーチング			
			コーチングにおけるリスクマネジメント			
			クラブ・チームの運営と事業			
			コーチング現場の特徴			
計			24h			
合計				45h	90h	135h
実習	現場実習	コーチングの実践と評価	5日	20日	50h	
			10h	40h		

1. 人間力（思考・判断）

コーチングの理念・哲学 「プレーヤーとともに学び続けるコーチ」

講義の概要 (ねらい、目的)	プレーヤーのパフォーマンス向上や生きる力の獲得などは全て「学び」の結果として表れるものです。また、成長し続けるコーチになるためには自らの「学び」について理解を深める必要があります。 本講義は、コーチングはプレーヤーとコーチ両者の「学び」を扱うプロセスであることを理解し、効果的な学び方に関する知識を得ることを目的とします。
到達目標	• グッドコーチの最も大切な資質能力の一つである「学び続ける姿勢」とは何かを理解し、学びのプロセスにおいて、プレーヤーと共に学ぶ態度を身につける。また、集団の中で自分の考えを積極的に発言する(アウトプットする)習慣を身につける。
キーワード	学びとは何か、実践力を身につけるには、
講義の進め方 (参考)	効果的な「学び」とは何かを理解し、実践力を身につける方法を学ぶ講義であるため、この講義自体が効果的な学びの場となるようにアクティブ・ラーニングの手法を用いてください。たとえば、実際に新しいタスクに挑戦させ、そこで起こっていたプロセスをグループで討議させて学びに対する理解を深めるようにするなどです。その際、重要なポイントは安心して自己開示できる環境を作り、失敗を恐れず様々な挑戦ができるようにしてください。また、プレーヤーとコーチ両方の立場から能力開発について考えさせ(ロールプレイ)、コーチが学び続けることが重要であることに気づかせてください。講義の最後にはコーチ自身の能力開発のためのアクションプランを作成し、その特長を人に説明できるようにしてください。

1. 人間力（思考・判断） コーチングの理念・哲学「コーチング及びコーチとは」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>コーチングでは、プレーヤーの主体的な学びを発達段階にあわせて支援していくことが重要です。また、それぞれのコーチはより良い社会の形成に寄与するコーチング文化を構築していく一員であることを自覚し、自らの能力開発に対して積極的に取り組んでいく必要があります。</p> <p>本講義は、コーチングの本質について考え、自身のコーチング理念・哲学を確立していくことを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自らのコーチングの置かれた背景や環境を適切に描写・分析し、その特徴を明確に述べるようになる。 • 他者のコーチングの置かれた背景や環境ではコーチングの仕方が異なることを理解し、自分との違いを明確に述べ、他者のコーチングの優れた点を指摘することができるようになる。 • 自らが属するコミュニティの中でコーチとしての自分が果たすべき役割について多角的な視点から述べるようになる。 • 時代の変化とともにコーチングも変化が必要であり、自らの経験のみに頼ったコーチングでは限界があることを理解し、修正できるようになる。 • 自分のコーチング理念・哲学を文章で具体的に表現できる。
<p>キーワード</p>	<p>コーチングとは、コーチとは、コーチング環境、新しい時代にふさわしいコーチング</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>コーチがプレーヤーの主体的な学びを支援する方法を学ぶのに最も適した方法は、コーチ育成者がコーチの主体的な学びを支援する方法を実践し、コーチがそれを経験することです。そのため、本講義ではコーチが能動的に学べるアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れてください。具体例を教材にしてグループでディスカッションを行い、その中で他者をリスペクトする態度を養い、グループやクラスというコミュニティで自らが果たすべき責任についての意識を高めます。講義の最後には自らの能力開発に関するアクションプランを作成し、その特長を人に説明できるようにしてください。</p>

1. 人間力（思考・判断） コーチングの理念・哲学「コーチに求められる資質能力」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>効果的なコーチングを実施していくには目指すべきプレーヤー像およびコーチ像を明確に持つ必要があります。これらが設定されれば、その目標を達成するために必要とされる思考・態度・行動・知識・技能といった資質能力について具体的に考えることが可能となります。</p> <p>本講義は、目標とするプレーヤー像およびコーチ像を実現させるために、複雑で動的なコーチング現場で、より適切な意志決定と行動を可能にするコーチの資質能力について考え、学びに対する動機を高めることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自らが育成を目指す理想のプレーヤー像について、その理由と具体的な事例を挙げて説明できるようになる。 • 自らが目指すコーチ像について、その理由と具体的な事例を挙げて説明できるようになる。 • 自らが目指すコーチが備えるべき資質能力について、思考・判断、態度・行動、知識・技能の各カテゴリーで具体的に説明ができるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>グッドプレーヤーとは、グッドコーチとは、グッドコーチに求められる資質能力とは</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>具体例を教材にしてグループでディスカッションを行い、講師はディスカッションリーダーとして講義を進め、受講者が課題解決に向けて能動的に取り組めるように工夫してください。グループ討議の場合には理想のプレーヤー像やコーチ像を考える際に具体的な人物を挙げ、その人物が持ち合わせている資質能力について話し合いを展開することも考えられます。ディスカッションリーダーは出てきた資質能力を思考・判断、態度・行動、知識・技能のカテゴリーに分類・整理してみてください。ただ、最後には必ずコーチ個人の目標設定につながるように導き、自らの行動変容を起こすためのアクションプランを作成し、その特長を人に説明できるようにしてください。</p>

1. 人間力（思考・判断） コーチングの理念・哲学「スポーツの意義と価値」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>スポーツ基本法では、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利であると謳われています。また、スポーツは人々の生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものです。これらをふまえれば、コーチはすべてのプレーヤーがスポーツに親しめる場やスポーツの意義と価値を知る機会が得られるようにサポートする責任があります。本講義は、コーチとしての望ましい考え方や行動とはどのようなものかを学び、コーチとしてのコーチング哲学の基礎を作り上げることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツの歴史と概念、その文化的特性、スポーツが社会に与える影響などについて具体的事実を挙げて説明できるようになる。 • 人間の成長過程において、スポーツとの出会いがどのような影響を与えるのか、スポーツ活動の中でどのような経験をし、何を学ぶことができるのかについて、具体的な事例を挙げて説明できるようになる。 • 将来にわたり、スポーツの文化を継承し発展させていく上で、その意義と価値を守り、育てていくことの必要性をオリンピズム、スポーツ基本法、スポーツ宣言日本を踏まえて説明できるようになる。 • スポーツのインテグリティとそれを脅かす暴力、八百長、ドーピング、人種差別、ガバナンス欠如などを排除する必要性について理解し、説明できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>スポーツとは(概念、歴史)、スポーツの文化的特性、スポーツと社会の関わり、スポーツ精神(自己責任、克己心、フェアプレー、スポーツマンシップ)、青少年の健全育成(コミュニケーション能力、豊かな心、他者に対する思いやりの心)、スポーツ基本法、スポーツ宣言日本、スポーツのインテグリティ、オリンピズム(オリンピック・パラリンピック)、アンチ・ドーピング(理念)</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義を進めるにあたって、できるだけ具体的事実をもとに受講者に考える機会を作ってください。例えば、スポーツが社会に与える影響について具体的事例を取り上げ、その事例に関わって受講者同士または講師を含め話し合いを進めてください。また、スポーツマンシップやフェアプレーについて、身近に起きている事例を取り上げ、受講者に質問を投げかけ、受講者同士がお互いの考えを共有できるよう、1対1やグループディスカッションなどを導入した授業を展開してください。</p>

1. 人間力（思考・判断） コーチングの理念・哲学「コーチの倫理観・規範意識」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>プレーヤーが主体的に判断し、行動する機会を確保する上で、スポーツ活動を直接的にサポートするコーチの役割はたいへん重要です。本講義は、プレーヤーの競技力向上のみならず、人間的な成長を促す上で、コーチングに求められる倫理観・規範意識を育成し、向上させることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コーチ(coach)の語源をふまえ、プレーヤーが主体的に判断し行動できるように促すため、コーチにはどのような関わり方が求められるか、具体的な例を挙げて説明できるようになる。 • コーチの持つ影響力の大きさを自覚し、プレーヤーに対してどのような態度や言動で関わるかが求められているか、具体的な事例を挙げて説明できるようになる。 • コーチは、暴力行為による強制と服従では、決して優れたプレーヤーや強いチームを育成できないこと、また暴力行為が指導における必要悪という考え方が誤りであることを説明できるようになる。 • プレーヤー自らが考え、判断する能力を養う上で、コーチは、常にプレーヤーとコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことが重要であることを説明できるようになる。 • なぜ、スポーツの環境では一般社会以上に倫理的問題が生じやすいのか、その構造的要因について説明し、倫理的問題を未然に防ぐために、コーチはどのような態度や言動をすべきか、具体的な例を挙げて説明できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>コーチング哲学、プレーヤーズファースト、コーチング(リーダーシップ)スタイル、ガバナンス、人権、暴力・ハラスメントの根絶</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義を進めるにあたっては、できるだけ具体的事実をもとに受講者に考える機会を作ってください。例えば、具体的なコーチングの場面を設定し、あなたなら、どのような意思決定・行動選択をするのか、またなぜそのような決定をするのかについて主体的に考えさせ、受講者同士または講師を含めて話し合いを進めてください。</p> <p>コーチング哲学やプレーヤーズファーストについて、いくつかの事例を取り上げ、受講者に質問を投げかけ、受講者同士がお互いの考えを共有できるよう、1対1やグループディスカッションなどを導入した授業を展開してください。</p>

1. 人間力（思考・判断） コーチングの理念・哲学「コーチの役割と使命（職務）」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>国際競技団体や各国のコーチングに関する組織(国際コーチング・エクセレンス評議会(ICCE)など)においては、コーチの主な職務とコンピテンスが提示されています。それらに共通した職務内容として、6つの思考・行動が実行できるようになることが目指されています。</p> <p>本講義は、この世界に共通したコーチの主な職務とコンピテンスについて理解するとともに、それらをコーチング現場で実践できる能力の向上を目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ICCEが提示する下記の6つのコーチの主な職務とコンピテンスを理解し、具体的に説明できるようになる。 ① プレーヤーおよびチームが有するニーズや育成段階に応じたビジョンと戦略の構築 ② ビジョンと戦略に応じたコーチング環境の整備(経済的要因、人的要因、物的環境要因) ③ プレーヤーや組織を構成する関係者、また協力を仰ぐ周囲の人々との良好な人間関係の構築 ④ 練習を効果的かつ適切に実施するための指導法、競技大会への取組やアプローチ法、試合における適切な指揮の執り方 ⑤ 現場で生じる問題に対して適切な対処法 ⑥ コーチング実践の振り返りと評価診断
<p>キーワード</p>	<p>ビジョンと戦略の設定、環境の構築、人間関係の構築、練習の指導と競技大会への準備、現場に対する理解と対応、学習と振り返り</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義では、できるだけ具体的事実をもとに受講者に考える機会を与え、その状況下でのコーチやプレーヤーの行動に意味を持たせて理解を促すように誘引してください。その事例を題材にして、受講者同士で話し合いを進めてまとめるグループディスカッションを展開してください。</p>

2. 人間力（態度・行動） 対自分力「多様な思考法」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>コーチとしての活動には様々な責任と役割が伴います。この責任と役割を果たしていくためには、コーチング現場の状況について「論理的思考」をはじめ「分析的思考」「創造的思考」「批判的思考」など多様な考え方をもって観察、分析、解釈などを行い、表現していくことが重要になります。こうした思考を身に付けることは、自身の指導への自信とともに、プレーヤーへの指導に対する説得力も増すことにもつながります。</p> <p>本講義では、コーチング現場における課題発見・解決に向けての思考法を理解するとともに、それらを実践できる能力の向上を目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の主張(伝えたいこと)を、系統立てて、網羅的に、必要十分な根拠を示し、順序良く説明できるようになる(論理的思考)。 • 日常のコーチング現場に対して、詳細を観察し、対象の分解・分類など分析を行い、解釈できるようになる(分析的思考)。 • 課題に直面した場合においても、柔軟性を持って新しい方向に解決策を探し対処できるようになる(創造的思考)。 • 日常のコーチングに対しても相手の発言に耳を傾け、論理や感情を解釈し、自分の考えに誤りや偏りがないか振り返るようになる(批判的思考)。 • 上記を学ぶことを通し、解決すべき課題に対して、論点を整理し、仮説を立て、仮説を検証し、最適な解決策を導き出すことができるようになる(課題発見・課題解決)。
<p>キーワード</p>	<p>論理的思考、分析的思考、創造的思考、批判的思考、課題発見・課題解決</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義を進めるにあたっては、「論理的思考法」や課題解決の手法などを講師から明確に教授の上、受講者が実践する時間を十分に設定してください。その上でコーチが日常的に直面する課題の中から事例を取り上げ、課題解決について、受講者自身の個人ワークとグループワークによる情報共有を実施してください。</p> <p>また、解決のプロセスを身につけるために、ケースとして取り上げる課題は、少しずつ難易度を高めながら進めるようにしてください。</p>

2. 人間力（態度・行動） 対自分力「コーチのセルフコントロール」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>コーチは、日々の指導場面で悩み、プレーヤー以上のストレスを抱えたり感情が高ぶることがあります。そのため、コーチにとって、様々な状況におかれた時に生じる自分の心理状態や行動パターン、対処・克服方法について理解しておくことは重要です。</p> <p>本講義は、自分の心理的、行動的な特徴を知り、セルフコントロールの各種技法の基礎を身につけることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 怒りやストレスを生じさせる様々な問題事象に対処する適切な方法(コーチのリーダーシップ行動)の基礎を理解し、説明できるようになる。 • どのような場面で葛藤や怒り、ストレスなどを感じやすいのかについて客観的に自己分析した上で、適切な表現や対応ができるようになる。 • 指導上自分の思い通りにならないときでも、忍耐強く、前向きに取り組むことの重要性を理解し、自分の中に生じた感情との付き合い方や調整の仕方を現場で活用できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>メンタルマネジメント、呼吸法、自律訓練法、リラクゼーション、イメージトレーニング、アンガーマネジメント、目標設定、ポジティブシンキング、セルフトーク、レジリエンス、自己分析・自己評価(内省)</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義を進めるにあたっては、受講者が自分の心理状態や行動スタイルを知り、どのように強みを活かして自己管理するとよさそうか、今後の活動のヒントを得るよう心がけてください。</p> <p>例えば、POMSテストやエゴグラムなどの心理尺度を用いて測定した内容の意見交換やセルフコントロール向上のための各種手法の体験などを、ペアあるいはグループで行ってください。このような受講者同士で自・他を振り返り情報交換する機会を導入し、自分自身の特徴への気づきや内面に対する理解を促してください。</p>

2. 人間力（態度・行動） 対自分力「コーチのキャリアデザイン」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>コーチング活動を最適化するためには、プレーヤーのキャリアデザインだけでなく、コーチとしてのキャリア形成の重要性について理解し、自身のライフスタイルを客観的に評価することや、望ましいコーチキャリアを展望することも大切です。</p> <p>本講義は、自身のコーチング活動における思考および行動変容を促進するための実践的方法について理解を深めることを目的としています。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ワークライフバランス(コーチングと仕事および生活との調和)の考え方について理解するとともに、自身のライフスタイルの現状とコーチとしての望ましいキャリア形成の方向性について考えることができるようになる。 • コーチ自身の振り返りによる自己評価や、第三者のメンタリングなどの他者評価の活用を含めた反省的なコーチング実践の確立と、コーチ自身の自律的なキャリア形成の重要性について理解し、課題などを立てて説明(記述)できるようになる。 • コーチ自身が設定した中長期的な目標(スポーツパフォーマンスだけでなく人間力や生涯にわたるスポーツとのかかわりなどを含む)を踏まえて、コーチング実践(思考および行動)の変容に向けた具体的な内容・方法について説明(記述)できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>目標設定、コーチの成長過程、コーチのキャリアデザイン、コーチのワークライフバランス</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義を進めるにあたっては、優れたコーチの失敗を含めたキャリア形成事例など、コーチのキャリアデザインに関連する具体的事例(問題)を取り上げながら、自身のコーチング実践と関連づけて振り返る機会を作ってください。</p> <p>また、受講者に質問を投げかけ、受講者同士が情報交換や互いの考えの共有を促すよう、1対1やグループディスカッションなどを導入した授業を展開してください。</p>

2. 人間力（態度・行動） 対他者力「コミュニケーション」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>コーチングの対象者を理解し、それぞれの目的・関心に応じた指導や環境づくりを行うとき、効果的な言語・非言語のコミュニケーションが不可欠です。特に、コーチの言葉かけとその影響を理解することは、強い信頼関係を築くことにつながります。</p> <p>本講義は、よりよいコーチングの基盤となるコミュニケーションスキルについて、基礎的な知識と実践力を身につけることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツ活動や運動の現場でコーチが行っている言動や姿勢・態度について、望ましい事例や望ましくない事例を踏まえながら、よりよいコミュニケーションとは何かについて自分の意見を述べるようになる。 • 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて、他者がどのような人であるかを理解し、考えやニーズを引き出すことができるようになる。 • コーチングの多様な対象者と関わる中で、コーチとして自分自身の長所を活かした魅力的なコミュニケーションを考え、表現できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>観察、積極的傾聴、承認、質問、プレゼンテーション、ファシリテーション</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義を進めるにあたっては、受講者自身の経験にもとづいて、その状況下でのコーチやプレーヤーの気持ちを多方面から考えることができるよう、自己のふり返りやグループディスカッションの機会を作ってください。</p> <p>また、各種コミュニケーションスキルの実践力を養うため、集団の人数や役割(例えば、コーチ役と選手役)を変化させながらコミュニケーション・ワークを行ってください。ワークの中では、それぞれの立場で何を感じたか、相手に受け入れられやすい対話にはどのようなものがあるか、あるいは信頼関係を築くには何が何かについて体感する場を設けるなど、実践に即した授業を展開してください。</p>

2. 人間力（態度・行動）

対他者力「人的環境(関係者との信頼関係)の構築」

講義の概要 (ねらい、目的)	<p>コーチが良好な関係を構築しなくてはならない対象は、プレーヤー個人だけではなく、プレーヤーの集合体としてのチームや、プレーヤーをとりまく関係者、そしてプレーヤーが所属するクラブ・チーム、つまり集団に対しても適切に関与していかなくてはなりません。</p> <p>そのような場面では、ビジョンや計画を共有すること、それらを策定する過程でメンバーの合意を形成することが必要になるでしょう。</p> <p>本講義は、実際のクラブ・チーム(集団)におけるコミュニケーションで必要となる知識や対処方法を身につけることを目的とします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">• 目標達成のために励ましあう、競い合うことで奮起するなど、プレーヤー同士の自律的な成長を促すために集団の力を活用する方法論を理解し、活用できるようになる。• 集団による問題解決、立案、対立解消など、合意形成を導くことができるようになる。• 選手を長期的な(選手生活を通した)視点で育成していくために、選手をとりまく関係者(アントラージュ／保護者、学校、競技団体等)と連携協力していくことの必要性を理解し、実行できるようになる。
キーワード	チームビルディング、協力・協働・協調、関係者(アントラージュ)との信頼関係構築
講義の進め方 (参考)	<p>複数の人をマネジメントするということは、コミュニケーションによって彼／彼女らの意識や意欲に直接的に働きかけ、望まれる行動への動機付けをおこなうということに他なりません。講義をすすめるにあたっては、実践につながる具体的な行動を学ぶ機会を作ってください。</p>

2. 人間力（態度・行動） 対他者力「プレイヤーのキャリアデザイン」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>生涯にわたってスポーツ文化を豊かに享受するためには、プレイヤーとしてだけでなく一人の人間(社会人)としての成長や成熟も必要です。</p> <p>本講義は、プレイヤーの将来を見据えたキャリア形成の重要性について理解し、自分自身および他者へのコーチング活動に活かすための実践的方法について理解を深めることを目的としています。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • デュアルキャリア(学業や仕事とスポーツとの両立)や競技引退後のキャリアトランジション、競技・種目間トランスファーの考え方などについて理解するとともに、自身のコーチングの現状とプレイヤーの望ましいキャリア形成の方向性について考えることができるようになる。 • プレーヤーの振り返りによる自己理解を促し、将来に向けたキャリア形成の可能性についての考え方やニーズを引き出しながら、自律的なキャリア形成へと導くことの重要性について理解し、課題などを立てて説明(記述)できるようになる。 • プレーヤーと共に中長期的な目標(スポーツパフォーマンスだけでなく人間力や生涯にわたるスポーツとのかかわりなどを含む)を設定し、共有していくための具体的な実践内容・方法について立案し、説明(記述)できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>目標設定、プレイヤーの成長過程、プレイヤーのキャリアデザイン、デュアルキャリア</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義を進めるにあたっては、優れたプレイヤーの成長プロセスや引退後のキャリア形成事例など、プレイヤーのキャリアデザインに関連する具体的事例(問題)を取り上げながら、自身のコーチング実践と関連づけて振り返る機会を作ってください。</p> <p>また、受講者に質問を投げかけ、受講者同士が情報交換や互いの考えの共有を促すよう、1対1やグループディスカッションなどを導入した授業を展開してください。</p>

3. 知識・技能（共通）

トレーニング科学「スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系」

講義の概要 (ねらい、目的)	優れたコーチは、実践の場においてプレーヤーやチームが直面する様々な問題を解決しながらパフォーマンスを向上させることができます。本講義は、プレーヤーやチームを成功へと導くコーチへと成長するために必要不可欠であるトレーニングについて紹介します。また、トレーニングでは一連の問題解決型の思考・行為に関するサイクルを循環させており、そのフレームワークごとに行う内容について理解するとともに、トレーニング実践能力の向上を目的とします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・ 自らがコーチングしているスポーツ種目のパフォーマンスがどのようなものであるかについて、明確な階層構造的要因として(設計図のように)理解し、活用できるようになる。・ 目指すパフォーマンスをどこに設定するか、またそのための課題は何かについて、時間資源を考慮しながら決定することができるようになる。・ 設定課題を解決するためのトレーニング手段を選択し、それら数種類を組み合わせてトレーニング方法を設定することができるようになる。・ トレーニングを数年間、1年間、数ヶ月、数週間、1週間、1日という長期から短期までの時間資源の中で計画できるようになる。・ 試合当日の行動を戦略的に行えるようになる。・ 一連のトレーニングサイクルが適切であったか、さらによりよくするためにはどうすべきかに関する測定・評価・診断(アセスメント)を行えるようになる。
キーワード	スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論、トレーニング目標論、トレーニング手段・方法論、トレーニング計画論、試合行動論、トレーニングアセスメント論
講義の進め方 (参考)	講義では、まずは基本的な知識を理解させ、それをもとにして自らが実践しているスポーツを題材にし、トレーニングに関する各種課題をワーキングさせてください。できるだけ具体的事実をもとに受講者に考える機会を与え、日頃行っている自らのトレーニングに意味を持たせて理解を促すように誘引してください。その事例を題材にして、受講者同士で話し合いを進めてまとめるグループディスカッションも展開してください。

3. 知識・技能（共通） トレーニング科学「体カトレーニング」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>スポーツパフォーマンスを向上させるためには、各プレーヤー・チームの競技水準や目的、課題に応じて、心理面、技術面、体力面を適切に強化することが不可欠です。3つの中でも、体力の強化を目指して行われるものが体カトレーニングになります。本講義は、体カトレーニングに関する基本的な原理および原則を把握するとともに、筋カトレーニング、パワートレーニング、持久カトレーニング、柔軟性トレーニングなどの手段および方法について理解することを目的としています。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 体力を構成する要素について、身体のしくみと働きを踏まえて体系的に知り、各自が実践するスポーツ種目に必要な体力の種類とそのバランスについて理解する。 • 体カトレーニングに関する基本的な原理および原則を理解する。 • 筋カ・パワートレーニングの手段と方法、原理および原則について理解する。 • 持久カトレーニングの手段と方法、原理および原則について理解する。 • 柔軟性トレーニングの手段と方法、原理および原則について理解する。 • 体カトレーニング手段の組み合わせ方について理解する。 • 上記の理解を踏まえて、各プレーヤー・チームに必要とされる体カトレーニングの目標と課題、具体的な手段、実践内容や方法について考えて計画し、説明できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>体力を構成する要素の体系、身体のしくみと働き、体カトレーニングの原理・原則、筋カトレーニング、パワートレーニング、持久カトレーニング、柔軟性トレーニング、体カトレーニング手段の組み合わせ方</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義では、まずは基本的な知識を理解させ、それをもとにして自らが実践しているスポーツで行うべき体カトレーニングに意味を持たせて理解を促すように誘引してください。その事例を題材にして、受講者同士で話し合いを進めてまとめるグループディスカッションも展開してください。</p>

3. 知識・技能（共通） トレーニング科学「技術トレーニング」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>パフォーマンスを向上させるためには、心理面、技術面、体力面を適切にトレーニングすることが不可欠ですが、特にスポーツ技術の獲得を重視して行われるものが技術トレーニングです。本講義は、技術の観察・分析・評価および技術トレーニングの手段と方法について理解することを目的としています。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 技術トレーニングの課題は、技術の理論的理解、能力に応じた技術のモデル化、技術の改善や最適化、新しい技術の創造などにあることを理解する。 • 技術を観察・分析・評価する方法には、定量的なバイオメカニクス的方法と、定性的な質的観察法(自己観察、他者観察)などがあることを理解する。 • 技術的な習熟・発達には大きく3つの段階があり、上達の過程でプラトーやスランプなどの現象が見られることを理解する。 • 技術トレーニングの方法には、全習法(協調的全習法)と分習法、集中法と分散法、負荷軽減法(アシステッド法)と超過負荷法(レジステッド法)、イメージトレーニング法などがあり、実施する順序や組み合わせによって効果が異なることを理解する。 • トレーニングの心理面、技術面、体力面はそれぞれ独立したものではなく、相互に規定し合い、密接に関連し補完し合う関係にあることについて理解する。 • 上記の理解を踏まえて、各プレーヤー・チームに必要とされる技術トレーニングの目標と課題、具体的な手段や方法について計画し、説明できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>スポーツ技術、スキル、バイオメカニクス、自己観察、他者観察、運動感覚(筋感覚・内部知覚)、運動学習</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義では、優れたコーチやプレーヤーの具体的な技術トレーニング事例などを取り上げ、自身のコーチング実践と関連づけて振り返る機会を作ってください。</p> <p>また、受講者同士が情報交換や互いの考えの共有を促すよう、グループディスカッションなどを導入した授業を展開してください。</p>

3. 知識・技能（共通） トレーニング科学「メンタルトレーニング」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>プレイヤーのパフォーマンスを向上させるためには、心理面、技術面、体力面をバランスよく強化することが大切です。特に心理面のトレーニングをうまく活用することで、技術・体力を効率よく向上させることが可能となります。また、身につけた実力(競技力)を試合で発揮するためにもメンタルトレーニングは重要です。</p> <p>本講義では、効果的なトレーニングを進めるために有効となる動機づけ理論や各種の心理技法の基礎を学びます。そのことでバーンアウトの予防やスランプへの適切な対処法をも理解します。さらに試合で実力を発揮するための心理技法を学びます。そのことであがりの克服、試合場面での実力発揮の支援法を理解します。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • トレーニングにおける内発的動機づけの重要性を理解し、コーチングに取り入れることで、バーンアウトの予防やスランプへの適切な対処法につながることを理解し、活用できるようになる。 • 動機づけを高める原理(達成動機づけ理論)や方法(目標設定技法、積極的思考)について理解するとともに、自身のコーチングに活用できるようになる。 • 試合で実力を発揮するための心理技法として、自己コントロール技法(リラクゼーションやサイキングアップ)、イメージ技法(内的イメージ、外的イメージ)、メンタルリハーサル技法(セルフトーク、ルーティーン)の基礎を学び、コーチングに活用できるようになる。 • あがりやスランプの心理的背景について理解し、対処法や克服法をプレイヤーに指導できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>目標設定、積極的思考、バーンアウト、スランプ、リラクゼーション、サイキングアップ、イメージ、セルフトーク、あがり</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>スポーツにおけるパフォーマンスと心理的状态の関係について具体的な事例を取り上げて理解を深めてください。その上で、メンタルトレーニングの基本スキル、あがりの対処法・克服法、スランプへの対処法などについて受講者同士で体験できるような実習形式の授業を取り入れてください。</p>

3. 知識・技能（共通） スポーツ医・科学「スポーツと健康」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>健康とはどのような状態をいうのか、また、スポーツ活動や運動によってどのような健康への効果がもたらされるのかについてなど、スポーツ活動と健康(QOL)との関わりについて学びます。また、世代、年代別の健康とスポーツ活動・運動についての考え方を学びます。 本講義は、コーチがスポーツ医学に関する知識を持つことの重要性について理解を深め、知っておくべきスポーツ医学の基礎的知識を得ることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 体力が身体の健康に深く関わっていることや、スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果などについて理解し、説明できるようになる。 • 基本的な生活体力を整えることの重要性、運動不足や肥満に起因する様々な疾患の予防(悪性新生物、心疾患、脳血管系疾患)、心理的な効果(メンタルヘルスやストレス対処、うつ病、不安神経症などの感情障害などへの積極的効果)を理解し、スポーツ活動や運動、あるいは活動的な日常生活をおくることの重要性について説明できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>加齢現象、健康の定義、WHOが示す身体活動のガイドライン、生活習慣病、運動の心理的効果</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義では、体力が身体の健康に深く関わっていることやスポーツ活動や運動、あるいは活動的な日常生活をおくることが、運動不足や肥満に起因する様々な疾患の予防、心理的な効果も期待されていることを理解させてください。 その上で、スポーツをしていない人への効果的な説明方法についてグループディスカッションで考えさせるなどの工夫をしてください。</p>

3. 知識・技能（共通）

スポーツ医・科学「外傷と障害の予防」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>スポーツで起こりうる外傷や障害に対して基礎的な知識を有することは、プレーヤーのコンディショニングだけでなく、競技生活そのものに深く影響するものである。</p> <p>本講義は、スポーツ活動中に起こりやすい外傷や内科的・外科的障害に関する基礎的な知識を習得し、それに対する具体的な予防法や対処法を理解することを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツ外傷・外科的障害の基礎知識について理解し、説明できるようになる。 • 起こりやすいスポーツ外傷・外科的障害について、部位別(頭頸部、上肢、体幹、下肢)に、対処法および予防法について理解し、自分が関わるスポーツについては説明できるようになる。 • スポーツ活動中に起こりやすい、熱中症などの内科的な障害についての基礎知識を理解し、予防と対処ができるようになる。 • 女性アスリートの三主徴(エネルギー不足、無月経、骨粗鬆症)について理解し、説明および予防ができるようになる。 • 外傷・障害予防としての、ウォーミングアップ、クーリングダウンについて理解し、実践できるようになる。 • ストレッチングを行う際の留意点と種類(動的、静的)および具体的な方法について理解し実践できるようになる。 • テーピングの役割や留意点を理解し実践できるようになる。 • アイシングを行う上での留意点および、具体的方法について理解し実践できるようになる • マッサージの目的や効果について理解するとともに、治療行為としては医療資格を持っていない者が行ってはならないことも理解し、説明できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>外傷・障害の予防、熱中症予防、女性の三主徴、ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチング、テーピング、アイシング、マッサージ</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>基本的な知識を理解させた上で、受講者自身や友人の受傷経験を提示してもらい、その中から生まれる疑問点などを、講師も含めディスカッションしながら知識、理解を深められるように、授業を展開してください。ストレッチングなどは、実技により受講者に有用性を実感させる機会を作ってください。</p>

3. 知識・技能（共通）

スポーツ医・科学「救急処置」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>スポーツ活動中には、一次救命処置(BLS: Basic Life Support)を要する状況や、応急処置を要する外傷に遭遇することがあります。</p> <p>本講義は、実際の現場で、的確な判断と救急処置を実践できるように、知識および処置の方法を習熟することを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 心肺蘇生cardiopulmonary resuscitation(CPR)ができるようになる。 • 自動体外式除細動器 automated external defibrillator(AED)を使用できるようになる。 • 異物で窒息をきたした場合の気道異物除去ができるようになる。 • RICE(Rest, Ice, Compression, Elevation)をはじめとした、外科的な応急処置について理解し、実際の現場でも対応ができるようになる。 • 緊急時の連絡マニュアルを作成できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>心肺蘇生法(CPR)、自動体外式除細動器(AED)、RICE処置(その他の応急処置)</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>実際のスポーツ現場で、処置を行うことができるように、テキストなどで手順を学んだ上で、1対1やグループで実習を行う機会を作ってください。CPRの手順やAEDの使用方法の習得には、人形や実際のAEDを用いた実習形式の講義を導入してください。</p>

3. 知識・技能（共通） スポーツ医・科学「アンチ・ドーピング」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>コーチが、なぜ、アンチ・ドーピングに取り組まないといけないのかを理解するとともに、アンチ・ドーピングに関する知識を習得することが求められます。</p> <p>本講義は、アンチ・ドーピング活動に関する理解を深め、コーチ自身および指導対象となるプレーヤーが適切に対応できるようになることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • アンチ・ドーピングの考え方とその歴史的背景、アンチ・ドーピング規程と我が国の対応を理解し、説明できるようになる。 • ドーピングコントロールの流れ(検査、結果の管理、制裁、上訴)について理解し、説明できるようになる。 • ドーピング検査の種類(競技会検査、競技会外検査)、検査方法(尿検査、血液検査、アスリートバイオリジカルパスポート)について理解し、説明できるようになる。 • 禁止物質と使用可能物質に関する最新情報の入手方法を理解し、説明できるようになる。 • アスリートの「責務」と「権利」を理解し、説明できるようになる。 • コーチ(サポートスタッフ)としての、役割、責務、制裁を理解し、説明できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>アンチ・ドーピング規程と我が国の対応、ドーピングコントロールとドーピング検査、禁止物質、治療目的使用にかかわる除外措置、スポーツファーマシスト</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義をすすめるにあたっては、過去のアンチ・ドーピング規則違反の事例を引用し、受講者に質問を投げかけるなど、より身近なものとして理解を深められるように工夫をしてください。禁止物質、使用可能物質についても実例を紹介し、知識を深めることができるようにしてください。ドーピング検査を受けた経験のある受講者がいれば、その経験談から講義を展開することもできるでしょう。</p>

3. 知識・技能（共通） スポーツ医・科学「スポーツと栄養」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>スポーツ活動・運動を支える栄養摂取についての基本的な知識を得るとともに、スポーツにおける栄養の役割や適切な食事、トレーニングの目的にあった食事のとり方についての理解を深めていきます。また、水分補給の重要性についても学習します。</p> <p>本講義は、日々の食事を規則正しく摂取することが健康的なスポーツライフをマネジメントするための第一歩であることを理解することを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 五大栄養素の基本的な役割や、日常の活動レベルに応じた栄養摂取の目安について理解し、説明できるようになる。 • 適切な栄養・食事摂取の考え方について理解を深め、目的に応じた食事のとり方や具体的な献立や食品を例示できるようになる。 • スポーツ活動中の水分補給について、適切な成分を理解し、具体的な摂取方法について指導できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>五大栄養素の役割、栄養素など摂取量、栄養所要量、サプリメント、食事の基本、水分補給、栄養・食事計画の立案</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義では、まずは基本的な知識を理解させ、それをもとにして自らが実践しているスポーツを題材にし、日常の活動レベルにおける基本的な献立や競技会(試合)前日・当日の食事の献立やとり方について、受講者同士で話し合いを進めてまとめるグループディスカッションを展開してください。</p>

3. 知識・技能（共通） スポーツ医・科学 「スポーツの心理」

<p>講義の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>スポーツが個人の人間形成に及ぼす効果や、個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスに影響することを学びます。また、スポーツは自らが好きで始めて、好きだからこそ目的意識を持って継続していけることを理解し、コーチとしてプレーヤーがやる気を持ち、自らスポーツに取り組むための基本的な考え方とその原理・原則を理解しておくことが重要です。本講義は、スポーツが心に及ぼす影響と心がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響などについて基礎的知識を身につけることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツ活動や運動が人間形成(自己概念、ライフスキル獲得)に与える影響や、コーチの指導条件が、これらの効果を促進させたり、妨害したりすることを理解する。 • スポーツにおける集団要因(リーダーシップやチームワーク)について理解し、指導に活用できるようになる。 • パーソナリティーの特徴や情動(緊張や不安)の状態が、運動パフォーマンスやトレーニング過程に及ぼす影響について理解し、指導に活用できるようになる。 • 内発的動機づけと外発的動機づけの違い、自己決定理論の構成要素を理解し、コーチングを通じてスポーツ活動への動機づけを高められるようになる。 • 運動学習理論に基づき、モデリング(観察学習)や言語的指導、効率的なフィードバックの与え方などを理解し、これらを活用できるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>自己概念、ライフスキル、リーダーシップ、チームワーク、内発的動機づけ、自己決定理論、運動学習、モデリング、フィードバック</p>
<p>講義の進め方 (参考)</p>	<p>講義では基本的な知識を十分に理解させてください。また、受講者自身が経験してきたスポーツを振り返り、人間形成に与える影響や心の状態がパフォーマンスに与える影響、スポーツにおける効果的な指導法の具体的な事例をとりあげて、ディスカッションするような講義を展開してください。</p>

3. 知識・技能（専門）

現場に対する理解と対応 「ライフステージに応じたコーチング」

講義の概要 (ねらい、目的)	<p>コーチングを行う上で指導対象者の年齢や運動経験、身体の状態などのライフステージによって配慮すべき点を理解し、指導しなければなりません。</p> <p>本講義では、加齢現象(発育発達期、成熟期、老化期)の特性を理解し、指導対象者の視点に立った指導および指導上の留意点について理解を深めることを目的とします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">各ステージにおける身体的、心理的特徴を理解し、さらに同じ年齢でも様々な要因(障害の有無を含む)で個別性があることを理解し、説明できるようになる。指導対象者の個々の状態に応じた適切な指導計画の作成や指導上の配慮ができるようになる。
キーワード	加齢現象(発育発達期、成熟期、老化期)、各期における身体的、心理的特徴、各期において起こりやすい外傷・障害、各期における指導計画
講義の進め方 (参考)	<p>講義を進めるにあたり、本講義が技術的なコーチングの前にコーチが最初に理解しておかなければならない根幹的な部分であることを受講者に理解させてください。</p> <p>加齢現象の各期に関する具体的な事例を取り上げ、その事例に関連した身近で起きているできごとや自分が指導する際はどのように展開するか(したいか)など、受講者同士または講師を含め話し合いを進め、講義を展開してください。</p>

3. 知識・技能（専門）

現場に対する理解と対応 「プレーヤーの特性に応じたコーチング」

講義の概要 (ねらい、目的)	コーチングを行う上で指導対象者の競技レベル、性別、身体 の状況などによって、その指導法や配慮すべき点を理解し、指導 しなければなりません。 本講義では、コーチングにおいて、競技レベル、性別、障害の 有無・特性を理解し、指導対象者の視点に立った指導および指 導上の留意点について理解を深めることを目的とします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">• スポーツに初めて出会う子供たちとトップアスリートでは、活動 の内容が異なることや、競技特性によって実施すべきトレー ニングが異なることを理解し、説明できるようになる。• 女性の身体的・心理的特徴およびトレーナビリティについて理 解し、さらに女性コーチや指導対象者がスポーツ現場で抱え る課題に触れ、求められるスポーツ環境や指導上の留意点 について学び、適切な指導や配慮ができるようになる。• 障害の概要(定義や種別)とその特性を理解し、障害に応じた 指導上の留意点やルール・用具などの工夫、配慮により、誰 もがスポーツに親しむことができることを学ぶ。また指導対 象者の障害特性を把握し、「できること」や「障害を補った動き」 を伸ばしていく視点に立ち、適切な指導ができるようになる。
キーワード	競技レベル・競技特性に応じた指導上の留意点、女性とスポー ツ(身体特性・心理的特徴)、障害特性(障害種別:身体障害 「肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、内部障害」、知的障害、 精神障害)に応じた指導上の留意点
講義の進め方 (参考)	講義を進めるにあたり、本講義が技術的なコーチングの前に コーチが最初に理解しておかなければならない根幹的な部分で あることを受講者に理解させてください。 女性の特徴、障害特性に関する具体的な事例を取り上げ、そ の事例に関連した身近で起きているできごとや自分が指導する 際はどのように展開するか(したいか)など、受講者同士または講 師を含め話し合いを進め、講義を展開してください。

3. 知識・技能（専門）

現場に対する理解と対応 「コーチングにおけるリスクマネジメント」

講義の概要 (ねらい、目的)	<p>スポーツには「内在する危険」があること、さらにコーチが法律上の責任を問われることもあることを理解し、各種スポーツにおける危険の確認、事故の予防、対処・対応方策など、スポーツ活動の実施に際して発生が想定される様々な“危険”をコントロールしなくてはなりません。また、コーチングに名を借りた暴力・暴言やセクシュアル・ハラスメントは基本的人権を脅かすことであり、スポーツ界から根絶しなければなりません。</p> <p>本講義では、スポーツ事故に関するリスクマネジメントとスポーツと人権について、法律上の責任を理解することを目的とします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">• スポーツ活動中およびその前後において、使用する用具（指導対象者の服装を含む）や施設・場所の安全性に関して確認し、事故を未然に防げるようになる。• スポーツ事故が発生した場合の対応とコーチの法的責任を理解し、リスクマネジメントリストを作成できるようになる。• スポーツに限らず、暴力行為は許されるものではなく、もしも、行った場合に、どのような法的責任があるかを理解し、暴力行為などを完全に否定できるようになる。• SNSの活用方法やそこに潜むリスクについて理解し、それらをプレイヤーに対しても指導できるようになる。
キーワード	内在する危険、リスクマネジメント、安全管理の知識（施設・用具の点検、事故の対処・対応）、モラル、人権、暴力・暴言、体罰、セクシュアル・ハラスメント、SNS対策
講義の進め方 (参考)	スポーツ活動中の事故事例を参考にそれらの発生機序を理解させ、用具・施設の管理、環境への対応、適切な指導、スポーツ事故発生への備えといったコーチが行うべきリスクマネジメントリストを作成させてください。

3. 知識・技能（専門）

現場に対する理解と対応 「クラブ・チームの運営と事業」

講義の概要 (ねらい、目的)	<p>スポーツクラブ・チームがそれぞれの目的を果たし、社会において価値ある存在であるためには、クラブ・チームが単なる集団ではなく、組織として機能させることが期待されます。コーチの立場によってはスポーツの技術指導だけではなく、クラブ・チームの効率的な運営能力を高める必要があります。</p> <p>本講義は、クラブ・チームの運営と事業展開におけるマネジメント能力を身につけることを目的とします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">• クラブ・チームのミッションとビジョンにもとづき、そのために必要な経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)を確保・活用し、効率的な組織経営能力を理解し、活用できるようになる。• マーケティング調査と必要な情報分析(マクロ分析、ミクロ分析、SWOT分析など)を活用できるようになる。• マーケティング活動の手順(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)とマーケティング・ミックスである4つのP(Product, Price, Place, Promotion)を理解し、顧客のニーズに応じたプログラムやイベントを計画できるようになる。• クラブ・チーム経営におけるリスクについて理解し、適切に対応できるようになる。
キーワード	マネジメント、経営戦略、経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)、マーケティング、プロモーション、リスクマネジメント(ガバナンス、コンプライアンス)
講義の進め方 (参考)	<p>講義を進めるにあたっては、クラブ・チームの組織経営が日常的に直面する課題の中から事例を取り上げ(ケースメソッド)、受講者自身の個人ワークとグループワークによる情報共有を実施してください。なお、個人ワーク及びグループワークの実施にあたっては、事前にマネジメントの必要性や機能などを明確に教授してください。</p>

3. 知識・技能（専門）

現場に対する理解と対応 「様々なコーチング現場の特徴」

講義の概要 (ねらい、目的)	コーチはスポーツを指導するにあたり、そのスポーツ組織の理念、目的に沿ったコーチング活動が求められます。 本講義は、学校スポーツ・地域スポーツ、トップスポーツ、障害者スポーツといった様々なスポーツ現場の特徴・現状を把握すること目的とします。また、これからの学びによって、コーチング現場で生じる問題を解決する手立てを得ることを目指します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">• 学校スポーツにおける教育・指導・援助のあり方を理解し、指導に生かせるようになる。• 総合型地域スポーツクラブの発足背景、構想理念、運営を理解し、指導に生かせるようになる。• 日本スポーツ少年団の創設背景、ねらい、組織運営を理解し、指導に生かせるようになる。• 障害者スポーツの歴史と現状や指導現場での組織体制とその取組みを理解し、指導に生かせるようになる。• JOC、JPC、JSC、JISSがトップスポーツに対して行っている支援を理解し、指導に生かせるようになる。• プロスポーツにおけるチームやリーグ、統括組織のあり方や事業運営を理解し、指導に生かせるようになる。
キーワード	学校スポーツ、総合型地域スポーツクラブ、日本スポーツ少年団、障害者スポーツ、トップスポーツ(ハイパフォーマンススポーツ)、プロスポーツ
講義の進め方 (参考)	講義では、グループワークを中心にこれまでに経験してきたコーチング現場について意見交換させてください。次に、それぞれの組織に関する知識、そして、コーチング事例を通して様々な現場で見られる問題とその解決に向けた取組を紹介してください。最後に、様々なスポーツ現場の特徴・現状について話し合わせ、理解を深めさせてください。

4. 実習 現場実習「コーチングの実践と評価」

<p>実習の概要 (ねらい、目的)</p>	<p>講義で学んだ知識や技能を実際の活動現場において活用できるようにするためには、明確な目的を持った指導実践が不可欠です。</p> <p>実際の指導実践にあたっては、事前のプランニングから結果までを自分自身による振り返りや経験豊富なコーチからの評価を得られる体制を整える必要があります。</p> <p>現場実習により、コーチングの難しさとやりがいを経験し、実践力を高めることを目的とします。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分自身のコーチングを省察し、必要に応じて柔軟に対応することができるようになる。 • 指導対象者に対して、基本的なコミュニケーションスキル(観察、傾聴、承認、質問)を活用できるようになる。 • 基本的な指導計画・練習計画を作成(立案)できるようになる。 • 状況に応じ、個人へのコーチング、集団へのコーチング、ゲーム中のコーチングを使い分けられるようになる。 • 個人の動き、集団(チーム)の動き、ゲームでの動きを観察・分析し、適切な助言(アドバイス)ができるようになる。 • 自分の考えや方針を、個人やチーム(クラブ)に納得感が高いわかりやすい説明ができるようになる。 • ミーティングなどにおいて、参加者の意見や主張を引き出し、会話を活性化させ、合意形成を図ることができるようになる。
<p>キーワード</p>	<p>指導計画・練習計画の作成(立案)、コーチングの実際(個人、グループ、ゲーム)、観察・分析とアドバイス(個人、グループ、ゲーム)、プレゼンテーション、ファシリテーション、コーチングの評価、障害者スポーツの体験</p>
<p>実習の進め方 (参考)</p>	<p>実習開始前に明確な目標設定を行い、毎日活動記録をつけるようにし、自己評価と経験豊富なコーチからの評価を受けられるように工夫してください。</p>

4. 大学等への導入における既存授業のカリキュラムの読み替え対応科目例

複数の体育系大学のカリキュラム及びシラバスを参考にして、対応科目を検討した。記載の科目名はほとんどの体育系大学で実施されていると思われるが、必ずしも教育目標ガイドラインに記載の内容と合致しているとは限らない場合もある(例えば「コーチング学」が競技別の指導方法を中心としているような場合)ので、科目名だけでは判断できない。

そこで、対応科目例として示す際に「教育目標ガイドライン記載の内容が網羅されていること」と但し書きを入れることとした。

モデル・コア・カリキュラム対応科目例(体育系大学)

資質能力区分	領域	主な内容	既存授業の対応科目例 (教育目標ガイドライン記載の内容が網羅されていること)	
人間力	思考・判断	プレイヤーとともに学び続けるコーチ	コーチング学/スポーツ指導法/スポーツ方法論/ スポーツ心理学	
		コーチング及びコーチとは		
		コーチに求められる資質能力		
		スポーツの意義と価値		スポーツ哲学/スポーツ社会学/スポーツ史/スポーツ人類学
		コーチの倫理観・規範意識		
	態度・行動	対自分	コーチの役割と使命(職務)	コーチング学/スポーツ指導法/スポーツ方法論/ スポーツ心理学/コミュニケーション論/体育科教育
			多様な思考法	
		対他者	コーチのセルフ・コントロール	
	コーチのキャリア・デザイン			
	コミュニケーション			
	人的環境(関係者との信頼関係)の構築			
	プレイヤーのキャリア・デザイン			
知識・技能	一般共通	トレーニング科学	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	
			体カトレーニング	スポーツ生理学/バイオメカニクス/測定評価/トレーニング科学
			技術トレーニング	スポーツ心理学
		スポーツ医・科学	メンタルトレーニング	スポーツ心理学
	スポーツと健康		スポーツ医学(内科・外科)/アスレティックトレーニング	
	外傷と障害の予防			
	救急処置			
	アンチ・ドーピング			
	スポーツと栄養	スポーツ栄養学		
	専門共通	現場における理解と対応	スポーツの心理	スポーツ心理学
			ライフステージに応じたコーチング	発育発達/トレーニング科学/スポーツ指導法/スポーツ方法論 /アダプテッドスポーツ
			プレイヤーの特性に応じたコーチング	スポーツ法学/スポーツ社会学
			コーチングにおけるリスクマネジメント	スポーツ経営学/スポーツマネジメント
			クラブ・チームの運営と事業	スポーツ社会学/スポーツ指導論/スポーツ方法論
			コーチング現場の特徴	
実習	現場実習	コーチングの実践と評価	コーチング学/スポーツ指導法	

5. 大学等への導入におけるカリキュラム基礎編(15回授業)参考例

作成にあたっての基本的な考え方として、①大学には各分野における専門の教員が在籍していることを前提にオムニバス形式の講義とすることを想定。②日本体育学会の分科会の領域で対応を考えた。③思考・判断、態度・行動は、同一講師が担当することで効果的な授業になると想定した。

また、できるだけ具体的なイメージができるよう参考にシラバス例も作成した。

コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」基礎編(案)①

コマ	資質能力区分	領域	主な内容	講師の専門分野
1	思考・判断	コーチングの理念・哲学①	スポーツの意義と価値	スポーツ哲学/スポーツ社会学/ スポーツ史/スポーツ人類学
2		コーチングの理念・哲学②	プレーヤーとともに学び続けるコーチ コーチング及びコーチとは コーチに求められる資質能力	
3		コーチングの理念・哲学③	コーチの倫理観・規範意識 コーチの役割と使命(職務)	
4	態度・行動	対自分力①	多様な思考法	コーチング学 スポーツ指導法 スポーツ方法論 スポーツ心理学 コミュニケーション論 体育科教育 ※同じ講師が行うことにより、領域・主な内容の縦断的な講義とする
5		対自分力②	コーチのセルフ・コントロール コーチのキャリア・デザイン	
6		対他者力①	コミュニケーション	
7		対他者力②	人的環境(関係者との信頼関係)の構築 プレーヤーのキャリア・デザイン	
8	一般共通	トレーニング科学①	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニング科学
9		トレーニング科学②	体カトレーニング 技術トレーニング	スポーツ生理学/バイオメカニクス/ 測定評価
10		トレーニング科学③	メンタルトレーニング スポーツの心理	スポーツ心理学
11		スポーツ医・科学①	スポーツと健康 アンチ・ドーピング	スポーツ医学(内科)/保健
12		スポーツ医・科学②	外傷と障害の予防 救急処置	スポーツ医学(外科)/アスレティック トレーニング
13		スポーツ医・科学③	スポーツと栄養	スポーツ栄養学
14	専門共通	現場における理解と対応①	ライフステージに応じたコーチング プレーヤーの特性に応じたコーチング コーチング現場の特徴	発育発達/トレーニング科学/ スポーツ指導法/スポーツ方法論/ アダプテッドスポーツ
15		現場における理解と対応②	コーチングにおけるリスクマネジメント コーチング現場の特徴 クラブ・チームの運営と事業 コーチング現場の特徴	スポーツ法学/スポーツ社会学/ スポーツマネジメント/スポーツ経営学

コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」基礎編(案)②

コマ	資質能力区分	領域	主な内容	講師の専門分野
1	思考・判断	コーチングの理念・哲学①	スポーツの意義と価値	スポーツ哲学/スポーツ社会学/ スポーツ史/スポーツ人類学
2		コーチングの理念・哲学②	プレーヤーとともに学び続けるコーチ コーチング及びコーチとは コーチに求められる資質能力	
3		コーチングの理念・哲学③	コーチの倫理観・規範意識 コーチの役割と使命(職務)	
4	態度・行動	対自分力①	多様な思考法 コーチのセルフ・コントロール コーチのキャリア・デザイン	コーチング学 スポーツ指導法 スポーツ方法論 スポーツ心理学 コミュニケーション論 体育科教育 ※同じ講師が行うことにより、領域・主 な内容の縦断的な講義とする
5		対他者力①	コミュニケーション	
6		対他者力②	人的環境の構築 プレーヤーのキャリア・デザイン	
7	一般共通	トレーニング科学①	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニング科学
8		トレーニング科学②	体カトレーニング 技術トレーニング	スポーツ生理学/バイオメカニクス /測定評価
9		トレーニング科学③	メンタルトレーニング スポーツの心理	スポーツ心理学
10		スポーツ医・科学①	スポーツと健康 アンチ・ドーピング	スポーツ医学(内科)/保健
11		スポーツ医・科学②	外傷と障害の予防 救急処置	スポーツ医学(外科)/アスレティック トレーニング
12		スポーツ医・科学③	スポーツと栄養	スポーツ栄養学
13	専門共通	現場における理解と対応①	ライフステージに応じたコーチング プレーヤーの特性に応じたコーチング コーチング現場の特徴	発育発達/トレーニング科学/ス ポーツ指導法/スポーツ方法論/ アダプテッドスポーツ
14		現場における理解と対応②	コーチングにおけるリスクマネジメント コーチング現場の特徴	スポーツ法学/スポーツ社会学
15		現場における理解と対応③	クラブ・チームの運営と事業 コーチング現場の特徴	スポーツマネジメント/スポーツ経 営学

コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」基礎編(案)③

コマ	資質能力区分	領域	主な内容	講師の専門分野
1	思考・判断	コーチングの理念・哲学①	スポーツの意義と価値	スポーツ哲学/スポーツ社会学/ スポーツ史/スポーツ人類学
2		コーチングの理念・哲学②	コーチの倫理観・規範意識	
3		コーチングの理念・哲学③	プレーヤーとともに学び続けるコーチ コーチング及びコーチとは コーチに求められる資質能力	
4		コーチングの理念・哲学④	コーチの役割と使命(職務)	
5	態度・行動	対自分力①	多様な思考法	コーチング学 スポーツ指導法 スポーツ方法論 スポーツ心理学 コミュニケーション論 体育科教育 ※同じ講師が行うことにより、領域・主 な内容の縦断的な講義とする
6		対自分力②	コーチのセルフ・コントロール コーチのキャリア・デザイン	
7		対他者力①	コミュニケーション	
8		対他者力②	人的環境の構築 プレーヤーのキャリア・デザイン	
9	一般共通	トレーニング科学①	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニング科学
10		トレーニング科学②	体カトレーニング 技術トレーニング	スポーツ生理学/バイオメカニクス /測定評価
11		トレーニング科学③	メンタルトレーニング スポーツの心理	スポーツ心理学
12		スポーツ医・科学①	スポーツと健康 アンチ・ドーピング 外傷と障害の予防 救急処置	スポーツ医学(内科)/保健/ス ポーツ医学(外科)/アスレティック トレーニング
13		スポーツ医・科学②	スポーツと栄養	スポーツ栄養学
14	専門共通	現場における理解と対応①	ライフステージに応じたコーチング プレーヤーの特性に応じたコーチング コーチング現場の特徴	発育発達/トレーニング科学/ス ポーツ指導法/スポーツ方法論/ アダプテッドスポーツ
15		現場における理解と対応②	コーチングにおけるリスクマネジメント コーチング現場の特徴 クラブ・チームの運営と事業 コーチング現場の特徴	スポーツ法学/スポーツ社会学/ スポーツマネジメント/スポーツ経 営学

科目名	〇〇〇〇〇〇論	担当 教員	オムニバス	履修 年次	4年	単位数	2単位
科目区分	関連科目	必修・選択 の区分	選択	担当教員研究室 同上研究室 TEL		〇〇〇〇研究室 000-123-4567	
授業の概要	<p>本科目は、新しい時代にふさわしいグッドコーチ育成のために新たに設置された科目である。日本体育協会が作成する共通テキストを用いて、オムニバス授業及びEラーニングを導入して実施する。15回の授業以外に現場実習(5日間10時間以上)の経験をもとに、レポートを作成する予定である。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい時代にふさわしいコーチングを行うための資質能力を習得する。 ・グッドコーチに求められる人間力(思考・判断、態度・行動)を習得する。 ・グッドコーチに求められる知識・技能(共通・専門)を習得する。 						
授業の進め方	<p>日本体育協会が作成する共通テキストを用いて、オムニバス授業及びEラーニングを導入して実施する。授業の基本的な進め方はアクティブ・ラーニングによって実施するので、事前学習や授業後の振り返りなどが重要となる。単元によっては、その内容を論じるにふさわしい外部講師が講義を担当する場合がある。</p> <p>また、15回の授業以外に現場実習(5日間10時間以上)を課す。</p>						
受講上の注意	<p>毎回の授業前後に課される演習問題に積極的に取り組むこと。</p> <p>現場実習として、所属部活動(サークル活動含む)や卒業高校でのコーチング実習を行い、レポートを提出する。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) コーチングの理念・哲学①(スポーツの意義と価値) 2) コーチングの理念・哲学②(学び続けるコーチ、コーチング及びコーチとは、コーチに求められる資質能力) 3) コーチングの理念・哲学③(コーチの倫理観・規範意識、コーチの役割と使命) 4) 対自分力①(多様な思考法) 5) 対自分力②(コーチのセルフコントロール、コーチのキャリアデザイン) 6) 対他者力①(コミュニケーション) 7) 対他者力②(人的環境(関係者との信頼関係)の構築、プレーヤーのキャリアデザイン) 8) トレーニング科学①(スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系) 9) トレーニング科学②(体カトレーニング、技術トレーニング) 10) トレーニング科学③(メンタルトレーニング、スポーツの心理) 11) スポーツ医・科学①(スポーツと健康、アンチ・ドーピング) 12) スポーツ医・科学②(外傷と障害の予防、救急処置) 13) スポーツ医・科学③(スポーツと栄養) 14) 現場における理解と対応①(ライフステージに応じたコーチング、プレーヤーの特性に応じたコーチング、コーチング現場の特徴) 15) 現場における理解と対応②(コーチングにおけるリスクマネジメント、コーチング現場の特徴、クラブ・チームの運営と事業、コーチング現場の特徴) 						
時学 間外 習	<p>毎回の授業前後に課される演習問題に積極的に取り組むこと。</p> <p>現場実習として、所属部活動(サークル活動含む)や卒業高校でのコーチング実習を行い、レポートを提出する。現場実習として、所属部活動(サークル活動含む)や卒業高校でのコーチング実習を行い、レポートを作成する。</p>						
指 教 科 定 書	日本体育協会が作成する共通テキスト						
成 基 績 の 準	授業への取組(発言回数及び発言内容)や事前事後に課される演習問題への取組のほか、現場実習におけるコンピテンシーリスト評価により評価する。						
教 連 絡 へ 方 の 法	<p>オフィスアワー:月～土曜日の12:10-13:00までに研究室まで。</p> <p>あるいはメール:*****@++++.or.jp</p>						
そ 他	本科目は、日本体育協会がスポーツ庁の委託を受けて作成したカリキュラムであり、修了者には、日本体育協会公認〇〇〇資格修了証明書が発行される(予定)。						

6. 評価表(コンピテンシーリスト)

できるだけ適切な評価をするためにも各項目の内容が具体的かつ客観的で判定可能な内容となるよう作成した。使途としては、他者評価だけでなく自己評価にも使用可能で、現場実習においても使用できる。

この評価表(コンピテンシーリスト)は基礎編用(15回の授業を終了した場合の評価表)として作成しており、すべての到達目標に対応するものではない。

また、この評価表(コンピテンシーリスト)については、議論が尽くされたわけではなく、あくまでも暫定版としてあり、さらに修正を加えていく必要がある。

モデル・コア・カリキュラム コンピテンシーリスト(案) 基礎編

5:十分にできる
4:できる
3:どちらでもない
2:あまりできない
1:できない

思考(理念・哲学) 「コーチングの理念・哲学」			自己評価	他者評価
コーチング理念・哲学	プレーヤーとともに学び続ける コーチ	プレーヤーとコーチが成長していく上で、共に「学び続ける姿勢」が重要であることを明確に説明できる		
	コーチング及びコーチに関する 理解と実践	「コーチングの本質とは何か、コーチの果たすべき役割とは何か」について、多角的な視点から自分の考えを明確に説明できる。 時代の変化とともにコーチングも変化が必要であること、また自らの経験のみに頼ったコーチングでは限界があることについて、明確に説明できる。		
	スポーツの意義と価値の理解	スポーツの概念とその歴史、文化的特性、スポーツが社会に与える影響について明確に説明できる。		
		人間の成長過程において、スポーツとの出会いがどのような影響を与えるのか、スポーツ活動の中でどのような経験をし、何を学ぶことができるのかについて、具体的な事例を挙げて説明できる。		
		将来にわたり、スポーツの文化を継承し発展させていく上で、その意義と価値を守り、育てていくことの必要性をオリンピック、スポーツ基本法、スポーツ宣言日本を踏まえて説明できる。		
	倫理観・規範意識	スポーツのインテグリティとそれを脅かす要因について、具体的な事例を挙げて説明できる。		
		コーチ(coach)の語源をふまえ、プレーヤーが主体的に判断し行動できるように促すために、コーチにはどのような関わり方が求められるか、具体的な例を挙げて説明ができる。		
		コーチは、暴力行為による強制と服従では、決して優れたプレーヤーや強いチームを育成できないこと、また暴力行為が指導における必要悪という考え方が誤りであることを具体的に説明できる。		
	コーチの役割と使命の理解	プレーヤーが自ら考え、判断する能力を養う上で、コーチは、常にプレーヤーとコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことが重要であることを具体的に説明できる。		
		なぜ、スポーツの環境では一般社会以上に倫理的問題が生じやすいのか、その構造的要因について説明し、倫理的問題を未然に防ぐために、コーチはどのような態度や言動をすべきか、具体的な例を挙げて説明できる。		
プレーヤーおよびチームが有するニーズや育成段階に応じたビジョンと戦略の構築、さらにそれらに応じたコーチング環境の整備(経済的要因、人的要因、物的環境要因)の重要性について、具体的な例を挙げて説明できる。				
プレーヤーやチームを構成する関係者、また協力を仰ぐ周囲の人々と良好な人間関係を構築することの重要性について、具体的に説明できる。 練習を効果的かつ適切に実施するための指導法、競技大会への取組やアプローチ法、試合における適切な指揮の執り方について、具体的な例を挙げて説明できる。 現場で生じる問題に対する適切な対処法と、コーチング実践の振り返りと評価診断について、具体的な例を挙げて説明できる。				
態度・行動(人間力) 「対自分」			自己評価	他者評価
多様な思考法	論理的思考力	自分の主張(伝えたいこと)を系統立てて、網羅的に、必要十分な根拠を示し、順序良く説明できる。		
	批判的思考力	日常のコーチングにおいて相手の発言に耳を傾け、論理や感情を解釈し、自分の考えに誤りや偏りがないか振り返ることができる。		
	課題発見力・課題解決力	解決すべき課題に対して、論点を整理し、仮説を立て検証し、最適な解決策を導き出すことができる。		
セルフコントロール	ストレスコントロール	ストレスを生じさせる様々な問題事象におかれた時に生じる心理状態や行動パターンを理解し、対処・克服できる。		
	アンガーマネジメント	どのような場面で葛藤や怒り、ストレスを感じやすいのかについて自己分析でき、対処できる。		

5:十分にできる
4:できる
3:どちらでもない
2:あまりできない
1:できない

態度・行動(人間力) 「対他者」			自己評価	他者評価
コミュニケーション	観察力	プレーヤーの言動や振る舞いを観察することで、体調や精神状態を把握することができる。		
		プレーヤーやチーム全体の動きやパフォーマンスを分析し、状況に応じて適切にアドバイスできる。		
	傾聴力	ベISINGなどを利用して、相手が話しやすい雰囲気を作り、発言を否定せず、最後まで話を聴き、すべてを受入れることができる。		
	承認力	相手の変化や成長(成果)に気づき、具体的な言葉にして伝えることができる。		
	質問力	クローズドクエスチョンとオープンクエスチョンを使い分け、相手の考えや気づきを引き出すことができる。		
相手の考えや気づきを促し行動を起こさせるため、視点を変える、選択肢を広げる質問や、リクエストや提案ができる。				
プレーヤーのキャリアデザイン	デュアルキャリア	デュアルキャリアやキャリアトランジション、競技・種目間トランスファーの考え方などについて理解し、自身のコーチングの現状評価やプレーヤーの望ましいキャリア形成の方向性について説明できる。		
	キャリアデザイン	プレーヤーやコーチが生涯にわたって自律的にキャリア形成に向き合うことの重要性について理解し、セルフコーチングを含めたコーチング実践におけるキャリアデザインを最適化する方法について説明できる。		
知識・技能 「トレーニング科学」			自己評価	他者評価
スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	パフォーマンスの理解	自らが関わっているスポーツのパフォーマンスについて、階層構造的に理解し、説明できる。		
	課題の設定	目指すべきパフォーマンスを設定し、その設定に到達するための課題を時間資源を考慮しながら設定することができる。		
	トレーニング計画の策定	設定課題を解決するためのトレーニング計画(手段、方法、期間)を立案することができる。		
体カトレーニング	体力構成要素と身体のしくみと働きの理解	体力を構成する要素について、身体のしくみと働きを踏まえて体系的に説明できる。		
	原理原則の理解	体カトレーニングに関する基本的な原理及び原則を説明できる。		
	体カトレーニングの計画	自らがコーチングするスポーツに必要とされる体カトレーニング計画を作成できる。		
技術トレーニング	技術の観察・分析・評価	技術の観察・分析・評価に用いる定量的および定性的方法の特徴(特長)について説明できる。		
	技術トレーニングの手段と方法	技術の習熟・発達段階や技術トレーニングの方法および効果について説明できる。		
	技術トレーニングの計画	コーチング対象に応じた技術トレーニングの目標と課題を設定し、それを達成するための手段や方法の選択を含めたトレーニングを計画し説明できる。		
メンタルトレーニング	動機づけ理論の理解	動機づけを高める原理や方法について理解し説明できる。		
	心理技法の基礎的理解	心理技法としての自己コントロール技法、イメージ技法、メンタルリハーサル技法について理解し説明できる。		
	あがり、スランプの対処・克服法の理解	あがりやスランプの心理的背景を理解し説明できる。		

5:十分にできる
 4:できる
 3:どちらでもない
 2:あまりできない
 1:できない

知識・技能 「スポーツ医・科学」			自己評価	他者評価
スポーツと健康	スポーツと健康に関する基本的な理解	体力と健康、スポーツ活動や運動が身体に及ぼす効果について理解し説明できる。		
外傷と障害の予防	スポーツで起こりうる外傷と障害(外科的)の理解	スポーツ活動によって起こりやすい外傷・外科的障害について、部位別の対処法と予防法を理解し説明できる。		
	スポーツで起こりうる障害(内科的)の理解	スポーツ活動によって起こりやすい内科的な障害について理解し、説明できる。		
	女性アスリートの三主徴に関する理解	女性アスリートの三主徴について理解し、説明できる。		
	ウォーミングアップとクーリングダウンの実践	外傷・障害予防としてのウォーミングアップとクーリングダウンについて理解し、説明できる。		
	ストレッチングの実践	ストレッチングの具体的な種類(動的、静的)と方法について理解し、説明できる。		
	テーピングの実践	テーピングの役割や施術の留意点を理解し、説明できる。		
	アイシングの実践	アイシングの役割と留意点を理解し、説明できる。		
	マッサージに関する理解	マッサージの目的や効果について理解するとともに、治療行為としては医療資格を有していない者が行ってはいけないことを理解し、説明できる。		
救急処置	一次救命処置の実践	心肺蘇生ができる。自動体外式除細動器を使用できる。気道異物除去ができる。		
	RICE処置	RICEをはじめとする応急処置を理解し、現場で対応できる。		
スポーツと栄養	栄養摂取の基本的な理解	スポーツにおける栄養摂取の基本的な役割や適切な食事、トレーニングの目的に応じた食事のとり方について理解し、具体的な献立や食品を説明できる。		
	水分補給に関する理解と実践	スポーツ活動中に必要な水分の最適な成分と適切なタイミングで摂取させることについて理解し、説明ができる。		
スポーツの心理	スポーツが人間形成に及ぼす効果に関する理解と実践	スポーツ活動や運動が人間形成に及ぼす影響やコーチングによってその効果を促進したり、妨害したりすることについて理解し、説明できる。		
	スポーツにおける集団要因に関する理解と実践	リーダーシップやチームワークについて理解し、説明できる。		
	パーソナリティとパフォーマンスに関する理解と実践	パーソナリティの特徴や情動(緊張や不安)がパフォーマンスやトレーニング過程に及ぼす影響を理解し、説明できる。		
	コーチングを通じての動機づけに関する理解と実践	内発的動機づけと外発的動機づけの違い、自己決定理論の構成要素を理解し、コーチングを通じての動機づけを高められることを説明できる。		
	運動学習理論の理解と実践	運動学習理論に基づき効率的なフィードバックの与え方などを理解し、説明できる。		

5:十分にできる
 4:できる
 3:どちらでもない
 2:あまりできない
 1:できない

知識・技能 「現場に対する理解と対応」			自己評価	他者評価
ライフステージに応じたコーチング	発育発達期におけるコーチング	発育発達期における身体的、心理的特徴を理解し、説明できる。		
	成熟期におけるコーチング	成熟期における身体的、心理的特徴を理解し、説明できる。		
	老化期におけるコーチング	老化期における身体的、心理的特徴を理解し、説明できる。		
プレーヤーの特性に応じたコーチング	競技レベルに応じたコーチング	競技レベルや競技特性に応じてコーチングの内容が異なることを理解し、説明できる。		
	女性に対するコーチング	女性の身体的・心理的特徴を理解し、説明できる。		
	障害者に対するコーチング	障害の概要(定義や種別)とその特性に応じてコーチングの内容が異なることを理解し、説明できる。		
コーチングにおけるリスクマネジメント	施設用具の安全管理に関する理解と対応	スポーツ活動に使用する用具・施設の安全性に配慮し、事故を未然に防ぐことの重要性について理解し、説明ができる。		
	スポーツにおける法的責任に関する理解と対応	スポーツ活動中における事故とコーチの法的責任を理解し、説明できる。		
	暴力行為等の根絶と対応	暴力行為やあらゆるハラスメントは許されるものではなく、そのような行為が発生した場合(他者の行為も含め)の法的責任を理解し、説明できる。		
クラブ・チームの運営と事業	組織のマネジメントに関する理解と実践	クラブやチームが単なる集団ではなく、社会において価値のある存在として認められ存続していくため、組織のマネジメントに関する基本的な考え方と手法を理解し、説明できる。		
	クラブ・チームにおけるリスクマネジメント	クラブやチーム経営におけるリスクについて理解し、説明できる。		
様々なコーチング現場における特徴	学校スポーツに関する理解と対応	学校スポーツにおける課題や特徴を理解し、コーチング現場における特徴を説明できる。		
	総合型地域スポーツクラブに関する理解と対応	総合型地域スポーツクラブにおける課題やコーチング現場における特徴を理解し、説明できる。		
	スポーツ少年団に関する理解と対応	スポーツ少年団における課題やコーチング現場における特徴を理解し、説明できる。		
	障害者スポーツに関する理解と対応	障害者スポーツにおける課題やコーチング現場における特徴を理解し、説明できる。		
実習 「指導実習」			自己評価	他者評価
コーチングの実際と評価	指導計画、練習計画の作成(立案)	スポーツ科学やスポーツ医・科学の知識を活かし、コーチング対象に応じた指導計画、練習計画を作成できる。		
	コーチングの評価	自らのコーチングについて自己評価することができ、他者からの評価も得られる環境ができています。		
	障害者スポーツの体験	障害者のスポーツ活動について理解し、誰もがスポーツに参加できる環境を整えることについて理解し、対応できる。		

IV. 課題と提言

1. モデル・コア・カリキュラム作成後の活用策

モデル・コア・カリキュラム作成後の活用については、平成26年度の報告書に下記4つの活用策を示した。

目標		対応策
目標1	日本体育協会公認スポーツ指導者制度養成カリキュラムへの導入	日本体育協会指導者養成カリキュラムとして制定し、講習試験免除適応コースの承認の条件とする。
目標2	全国体育系大学学長・学部長会加盟大学における導入	文部科学省及び日本体育協会が「モデル・コア・カリキュラム」を「指導者育成のための基準カリキュラム」として推奨することにより、導入を促し、すべての学生が学ぶことを目指す。
目標3	教員養成系大学における導入	文部科学省及び日本体育協会の推奨カリキュラムとして、教員養成系大学を対象に導入を促し、すべての学生が学ぶことを目指す。
目標4	教員現職研修等における導入	教員の現職研修(初任者研修、10年研修)や高体連、中体連が実施する、運動部活動指導者を対象とした研修事業等において、カリキュラムの全部又は一部を実施することを目指す。

それぞれの目標に関する実現可能性については次のとおり。

(1) 日本体育協会公認スポーツ指導者養成カリキュラムへの導入

日本におけるスポーツ指導者養成を担う日本体育協会の養成共通科目カリキュラムへのモデル・コア・カリキュラム導入については、平成30年度からの実施に向け調整中である。

(2) 全国体育系大学学長・学部長会加盟大学における導入

検討作業段階として、全国体育系大学学長・学部長会加盟校に対する書面調査を行い、好意的な評価を得ていること(26～31 ページ参照)。また、「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム」作成専門研究委員会委員の中心メンバーに体育系大学学長または学部長が就任し、作成に関わったことから、実現可能性は高いと考えられる。

(3) 教員養成系大学における導入、教員現職研修等における導入

教員養成系大学への導入と教員現職研修(更新研修)等への導入については、今後、具体的な導入へのシナリオについての検討を始める必要があると考える。

2. 大学及びスポーツ指導者(コーチ)養成団体等への導入に関する課題

(1) アクティブ・ラーニングによる学習

文部科学省はアクティブ・ラーニングを次のように定義している。

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

(出典:文部科学省 HP より http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm)

大学に限らず、これまでのスポーツ指導者(コーチ)養成における講義(授業)形態は一方向的な講義形式(伝達形式)が中心となっていたが、今まさに実践力を身につけるための効果的な学

習法であるアクティブ・ラーニングによる授業が求められている。

しかしながら、評価・検証作業において複数の指摘があったとおり、受講者(学生)が100人を超える様な場合、グループ討議などを行う際にリーダー的存在(ファシリテートできる人)がいない場合、さらにテーマに関して予備知識がない場合などには、期待される効果が得られないという不安もある。

現状では、アクティブ・ラーニングを提供する講師も受講する受講者(学生)もお互いに慣れていない状況であることから、本カリキュラムに対応したアクティブ・ラーニングを効果的に実施するためのコンテンツや手法を準備する必要があるだろう。

(2) 実習の場の確保と評価方法について

本カリキュラムでは理念・哲学や知識・技能の理解はもとより、実践力をつけるための工夫として、実習を課していることが大きな特徴である。しかしながらそれは、実践力の習得が、実習における学びの量と質に大きく依存することも意味している。

実習については、大きく3つの課題①実習の場の確保、②実習における監督者(教育者)の養成と確保、③統一された評価方法の検討があると認識している。

① 実習の場の確保

大学等における実習については、学生自身が所属する部活動やサークル活動が最も身近な実習の場となるであろうし、卒業中学や卒業高校へOB指導者として参加することも考えられる。日本体育協会等が実施するスポーツ指導者養成講習会では受講者自身の活動現場を実習の場とすることが考えられる。

② 実習におけるコーチ育成者(観察・支援・評価を行う者)の養成と確保

実習の特徴は、講義(授業)で学んだことを実践で試し、自らのコーチングを確認・評価することにある。しかしながら、その実習において受講者(学生)を観察・支援・評価するコーチ育成者がそれぞれの実習の場に確保されているか。また、「そのようなコーチ育成者がいたとしても本カリキュラムに基づく適切な評価が可能かどうか」は大きな課題である。コーチの学びや成長を育成・支援するコーチ育成者の養成と確保が急務であろう。

③ 統一された評価方法の検討

上記②においてコーチ育成者(観察・支援・評価を行う者)の養成と確保が急務であると指摘したが、統一されたカリキュラムにより実施されている以上、評価も統一されている必要であろう。このことについては、コンピテンシーリスト(73~77 ページ参照)の活用が解決策の一つとして考えられる。現段階では暫定版であるが、今後改良を重ね、自己評価と他者評価にも対応可能となる評価表とすることが望まれる。

(3) コーチ育成者(コーチ・デベロッパー)の養成

プレイヤーの成長に合わせて適切なコーチの存在が不可欠なことと同様にコーチの継続的な学びと成長を支援・教育するコーチ育成者が求められている。

日本においては、日本サッカー協会がインストラクター制度を設けてコーチ育成システムとして先進的に進めているが、スポーツ界全体としては定着していない。

ICCEにおいても、コーチ育成システムに不可欠な要素として、コーチが技術を学び、完成させることをサポートする熟練者の存在を挙げており、コーチ育成者(コーチ・デベロッパー)を次のように定義している。

コーチ・デベロッパーは単に経験豊かなコーチやコーチングの知識の伝道者であるだけでは

ない。彼らはポジティブで効果的なスポーツ体験をすべての参加者に提供するために、コーチを育成・支援し、彼らが知識やスキルを磨いたり向上したりするのを促すトレーニングを受けた者である。

モデル・コア・カリキュラムに基づき養成するグッドコーチは、プレーヤーのパフォーマンス向上と人間的成長を支援し、スポーツの意義と価値を高める存在である。また、グッドコーチは常に学び続ける姿勢を持っている。そのようなグッドコーチを養成していくためには、大学においても日本体育協会等のスポーツ指導者養成団体においてもコーチの学びや成長を継続的に支援・教育するコーチ育成者(コーチ・デベロッパー)が必要である。

日本におけるコーチ育成者の役割と使命、さらには活動範囲を明らかにした上で、できるだけ早期に養成する必要があるだろう。

(4) 効果的な学習を促す教材の作成

モデル・コア・カリキュラム「教育目標ガイドライン」は、講義(授業)の進め方としてアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れていることを大きな特徴としている。ただし、限られた講義(授業)時間の中で、受講者(学生)の能動的な学びを促し効果的に進めるには、講義(授業)を担当する講師に一定のスキルが求められる。また、受講者(学生)が講義(授業)に臨むにあたり事前事後の学習も不可欠である。

これらの課題を解決するための対策として効果的な学習を促す教材(テキスト、映像資料、Eラーニングなど)を作成することが望まれる。

なお、アクティブ・ラーニングについては、(1)で指摘したとおり、現状では講師も受講者(学生)も不慣れなため講師への教育・研修と合わせ講師用教材も検討すべきだろう。

(5) 評価基準の作成と提示

モデル・コア・カリキュラムを受講することにより、受講者(学生)の思考と行動がどのように変容したのか、どのように変容することが望ましいのか。さらには、その修了を誰がどのような基準で判定するのか。残念ながら、今回の検討作業においては、カリキュラムと同様に重要である評価基準(修了判定)について結論を出すまでには至らなかった。

現段階では、暫定版ではあるがコンピテンシーリスト(73~77 ページ参照)を作成しているので、これを改良しつつ完成させていくことが望ましいだろう。

(6) モデル校によるトライアル授業

モデル・コア・カリキュラムは、すべての受講者(学生)が学ぶべき基礎編とコーチとしての専門性を広く深く追求する応用実践編により構成している。このうち、基礎編を用意したねらいの一つに教員養成系大学や体育系以外の大学において導入することを想定している。

なぜなら、教員を目指すすべての学生(保健体育以外も含めて)が卒業後に教員として採用され、運動部活動の現場に立つときに自信を持って指導にあたることができるようにすべきと考えたからである。

平成26年7月に発表された日本体育協会による「学校運動部活動指導者の実態に関する調査」では、中学や高校の学校運動部活動において指導を行う教員の4割以上が「担当教科が保健体育ではない」かつ「現在担当している部活動の競技経験なし」で、さらにその教員の4割弱は指導において最も問題・課題と感じていることとして「自分自身の専門的指導力不足」を挙げている。

今回の検討作業において、基礎編の45時間(15回授業)の参考例を70~71ページに示し

ているが、評価・検証作業では、45 時間でグッドコーチに求められる資質能力が身につくかどうかという指摘もあった。

今後、教員養成系大学や体育系以外の大学においてモデル・コア・カリキュラム導入を実現させるためには、複数のモデル校によるトライアル的な授業を実施し、そのノウハウを広く提供していく必要があるだろう。

3. 制度的な課題(実効性ある仕組みづくり)

(1) 日本スポーツ界の「コーチ育成基準カリキュラム」としてのルール作り

モデル・コア・カリキュラムを日本スポーツ界において定着させるためには、スポーツ庁をはじめとするすべてのスポーツ関係団体・組織がスポーツ指導を行うためには、このカリキュラムを学んでいることが最低条件」という共通ルールをつくらなければならない。

このことは、平成25年度の「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)」報告書(以下「タスクフォース報告書」という)の第Ⅲ章2.「コーチの資質能力向上方策」(1)で「我が国スポーツ界全体のコーチの質が保証されるよう取り組む必要がある。」や「原則として、コーチングの現場に立つ全てのコーチが資格を有し、質が保障されるよう取り組むことが期待される。」という表現で明らかにされている。

(2) カリキュラム修了者(有資格者)の処遇について

上記ルール化が実現となったとしても、あくまでもスポーツ界におけるルールであり、社会全体の中での評価が高くなるとは限らない。具体的にいえば、カリキュラム修了者(有資格者)と未修了者(無資格者)との差別化がなければ実効性は担保できないと考える。

これに関しては、日本体育協会、日本オリンピック委員会、中央競技団体は、それぞれが主催する事業などにおいて有資格者を積極的に活用(登用)することが求められ、極端な表現に言い換えるならば「無資格者は活用(登用)しない」覚悟が必要となる。

日本体育協会スポーツ憲章第4条「基本的権利」では「スポーツは、性別や年齢、障がいの有無などに関係なく、全ての人々が自由に楽しむ文化であり、スポーツを楽しむことは、全ての人々の基本的な権利である。そして、その権利の実現のためには、誰もがスポーツに親しめる機会として、「する」、「みる」、「支える(育てる)」等の多様な関わり方が可能となり、また、適切なスポーツ指導能力を持つ有資格者の指導が受けられるよう配慮されなければならない。」としており、スポーツ基本法前文の「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」を補完するものである。

各スポーツ団体・組織において、今まで以上に一步踏み込んだルール化(制度化)を考える時期が来たのではないだろうか。

また、タスクフォース報告書の第Ⅲ章2.「コーチの資質能力向上方策」(3)で「スポーツ団体、地方公共団体及び大学等が連携し、(中略)人材のマッチングや新たな活躍の場の創出に取り組むことが期待される。その際、コーチの活用に当たって適切な処遇が行われるよう留意するとともに、人材が流動化しつつあることを踏まえ、コーチがキャリア形成の見通しを持つことのできるような仕組みを工夫することが大切である。」と報告している。

具体例をあげるとすれば、スポーツ庁が取り組んでいる「運動部活動指導の工夫・改善支援

事業」における「部活動指導者(仮称)」や「外部指導者」については、本カリキュラム修了者(有資格者)でなければならないなどの条件を付加することも考えられよう。

これまでのスポーツ指導者養成や資格制度の創設期から課題となっており、「スポーツ指導者として必要となる資質能力を有することを証明する資格」という解釈ではなく、「スポーツ指導を行うために必要な資格」となることが求められ、将来的には職種や雇用につながる「新しい時代にふさわしいコーチング」資格も期待される。

4. 提言(2020のレガシーとして)

運動部顧問の体罰を理由として高校生が自死に至り、女子ナショナルチームでもハラスメントと認定される事案が起きてからはや4年。当時の下村文部科学大臣をして「スポーツ史上最大の危機」と言わしめる声明を受け、「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)」が設置された。その提案を受けて開始されたコーチング・イノベーション推進事業の重要なパートを受け持ったのがこの「モデル・コア・カリキュラム」作成のプロジェクトである。本プロジェクトの実働部隊と言えるワーキングメンバーは、私も含めまさにコーチングの現場にいて、コーチ・プレーヤーの生の声を聴きながら、熱い議論を重ねてきた。机上の空論にならぬよう、理論と実践の往還を心がけ、その成果が本報告に示されている。関係各位ならびに読者の皆様からの、忌憚のないご批判、ご指摘を歓迎したい。

今後について、この成果が東京2020のレガシーとなるよういくつかの提言をしておきたい。まず、何よりもこのカリキュラムを「絵に描いた餅」にしないため、実効性のある仕組みづくりを進める必要がある。端的に言えば、このカリキュラムを国の「コーチ育成基準カリキュラム」と位置づけ、それを受講・修了したコーチが、生き生きと活躍できる環境を整備する必要がある。そのためには、文部科学省・スポーツ庁および日本スポーツ振興センターの指導・助言を頂きながら、日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会、中央競技団体の様々な場面で活動できるような仕組みづくりが急務であろう。言い換えれば、このカリキュラムを学んだコーチには一定の資格等が付与され、それに見合った処遇がなされる必要がある。これには、日本体育協会を含め、スポーツ関係団体が一堂に会する「コーチング推進コンソーシアム」がリーダーシップを発揮してくれることを期待したい。

コーチング推進コンソーシアムのリーダーシップのもと、まず体育系大学において、本カリキュラムが「コーチ育成基準カリキュラム」と位置づけられることを願う。全国体育系大学学長・学部長会加盟大学において本カリキュラムが導入されることで、全国の体育系大学卒業生が、新しい時代にふさわしい「グッドコーチ」として、社会に輩出されることになる。それに先んじて、日本体育協会がこのカリキュラムを指導者養成カリキュラムとしても制定しておくことで、各大学を講習試験免除適応コースとして承認することも可能となるだろう。なお、本カリキュラムの教育目標ガイドラインやキーワード、到達目標は、全国体育系大学学長・学部長会が「質保障」の一環として定めた内容を参照して作られている。それぞれの大学のディプロマポリシーに沿ったユニークなカリキュラム構成を妨げるものではなく、むしろさまざまな発展形を生み出す基礎として位置付けることができるはずである。

また、中学校・高等学校で運動部を指導している教員の半数以上が保健体育以外の教員である現状にあって、コーチングの知識が十分でない彼らの負担が大きいと聞く。その中には、運動部指導に必要な知識を得るため、自身の余暇時間をわざわざ割いて、スポーツ教室やコーチングの研修会に通っている熱心な教師もいるようだ。多くの教員養成系大学では、「体育」が必修科目となっている場合が少なくない。もし本カリキュラムが教育系大学の教職必修科目の1つとして位置付けられれば、保健体育が専門でない教員であっても、自信をもって運動部の指導ができるようになるだろう。同時に、自身の運動経験や勘だけに頼り、プレーヤーに自分の考えを押し付けるような、独りよがりのコーチングは徐々になくなっていくに違いない。

それに関連し、「チーム学校」で認められている「部活動指導員(仮称)」は、ぜひこのカリキュラムの受講者が担当すべきだろう。教員免許を持たない教職員以外の他職種のコーチでも、学校

現場で運動部指導を行うために必要な、最低限の知識が学べるように配慮されている。

スポーツ少年団の指導にも、本カリキュラム受講者があれば地域や保護者の安心につながるであろう。スポーツ少年団で学んだ小学生プレーヤーが、中学校、高等学校の部活動に進んでも、同じ資質能力を持ったコーチから指導を受けることができるようになることは、ドロップアウトやバーンアウトの予防にもつながるだろう。小学校から運動好きを育てることは、生涯スポーツへの誘因となることが分かっている。このことは、我が国がスポーツ立国であるための大きな柱である。

さらに、商業スポーツ指導者(スイミングクラブ、スキー教室、テニスクラブ、フィットネスやエアロビックの指導者、他)にとっても本カリキュラムが歓迎されることを願いたい。健康スポーツを志向する指導者に対しても、本カリキュラムを受講することで、最新のスポーツ医・科学の知識が得られるようにデザインされている。特に、超高齢社会を迎えた我が国にあって、健康寿命の高進に寄与することは、これからのスポーツコーチにとっては意義ある挑戦となろう。

前述のとおり、本事業はスポーツ指導における暴力根絶をきっかけに始まった。しかしできあがったカリキュラムは、東京 2020 を含めれば夏・冬 4 回目のオリンピックを開催する国の、成熟したスポーツ文化を色濃く反映した、特色あるカリキュラムとなった。その一方で、我が国独自の、このユニークなカリキュラムは、ICCE(国際コーチング・エクセレンス評議会)会長、ジョン・ベールズ会長に「エクセレント!」と言わしめる、グローバル・スタンダードと呼んでも良い内容ともなっている。

これにより、世界を舞台にはばたく日本のグッドコーチが増えると期待できる。万国に共通の国際基準でありながら、日本の成熟したスポーツ文化を色濃く反映した、このユニークなカリキュラムを学んだコーチは、わが国だけにとどまらず、世界で活躍すべきであろう。これまで私たちは、日本のプレーヤーが世界で活躍する姿を見てきた。これからは、それに加えて、さらに多くの日本のグッドコーチが世界各国のチームを指導する姿を見ることができるようになるかもしれない。また世界のコーチング界を牽引する新たなリーダーも、ここから生まれると信じている。

ワーキングを閉じるにあたり、以上を 2020 のレガシーとして提言しておきたい。ご協力いただいた関係各位に心から御礼申し上げると同時に、これまでも、そしてこれからも日本のスポーツを支え続けてくれる、日本のグッドコーチたちにも感謝申し上げたい。

モデル・コア・カリキュラム作成ワーキンググループ
座長 土屋 裕睦

会議開催経過(日程、出席者等)

第1回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成ワーキング会議

日時:平成27年5月28日(木) 17:00~19:30

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

出席者:土屋委員、伊藤(雅)委員、関子委員、滝澤委員、半谷委員、深見委員、森丘委員、
吉田委員

オブザーバー:関専門官、那須野係長(以上、文部科学省)、相馬委員(JOC)

事務局:岡、吉原、渡部、品治

<議題>

1. 共通認識確認
2. 教育目標ガイドラインのアウトプットイメージの共有
3. 科目の整理とカリキュラムの体系化の検討
4. その他

第1回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成専門研究委員会

日時:平成27年7月27日(月) 13:30~15:30

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

出席者:平野委員、石崎委員、今村委員、遠藤委員、加茂委員、真田委員、高橋委員、福田委員、
望月委員

オブザーバー:関専門官、那須野係長

事務局:岡、吉原、渡部、品治

<議題>

1. 平成27年度 委員会構成について
2. 平成27年度の取り組み(完成までの作業手順)について
3. モデル・コア・カリキュラム「科目の整理」進捗状況について
4. 体育系大学への導入について
5. その他

第2回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成ワーキング会議

日時:平成27年8月5日(水) 15:00~19:30

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

ゲストスピーカー:清水隆一(清水隆一コーチングカレッジ株)

出席者:土屋委員、伊藤(雅)委員、伊藤(リ)委員、滝澤委員、深見委員

オブザーバー:相馬委員

事務局:岡、渡部、品治

<議題>

1. 進捗状況確認
2. アクティブ・ラーニングについて情報共有
3. 「科目の整理」確定

4. 教育目標ガイドライン作成について
5. 「評価・検証」役割分担(担当決め)
6. 「評価・検証」方法等の検討
7. その他

第3回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成ワーキング会議

日時:平成27年9月4日(金) 15:00~19:30

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

出席者:土屋委員、伊藤(雅)委員、滝澤委員、半谷委員、深見委員、森丘委員、山田委員、
吉田委員

オブザーバー:那須野係長、相馬委員

事務局:岡、吉原、品治

<議題>

1. 進捗状況確認
2. 「カリキュラムの体系化」
3. 「教育目標ガイドライン」内容確認
4. 「評価・検証」について
5. スケジュール確認
6. その他

コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成ワーキング カリキュラム検討小会議

日時:平成27年10月23日(金) 13:00~18:30

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

出席者:土屋委員、深見委員、森丘委員

事務局:岡、吉原、渡部

<議題>

1. 「教育目標ガイドライン」内容確認

第4回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成ワーキング会議

日時:平成27年11月6日(金) 15:00~21:00

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

出席者:土屋委員、伊藤(雅)委員、関子委員、深見委員、森丘委員

オブザーバー:中村補佐、那須野係長(以上、スポーツ庁)、相馬委員

事務局:岡、吉原、渡部、品治

<議題>

1. 進捗状況確認
2. 「教育目標ガイドライン内容確認」
3. 「モデル・コア・カリキュラム確定」
4. トライアル授業の進め方
5. スケジュール確認

6. 「評価・検証方法の検討」について(チーム別ワーク)

第5回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成ワーキング会議

日時:平成27年11月27日(金) 17:00~19:00

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

出席者:土屋委員、伊藤(雅)委員、伊藤(リ)委員、滝澤委員、半谷委員、深見委員、森丘委員

オブザーバー:中村補佐、那須野係長、相馬委員

事務局:岡、吉原、渡部、品治

<議題>

1. 進捗状況確認
2. 「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム」ワーキング案の基本的な考え方」内容確認
3. 「評価・検証方法の検討」
4. 「コンピテンシー・リスト」の作成
5. その他

第2回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成専門研究委員会

日時:平成27年12月22日(火) 13:30~15:30

場所:シダックスホール7階 Fホール

出席者:平野委員、今村委員、遠藤委員、加茂委員、具志堅委員、福田委員、望月委員

ワーキング:土屋委員、伊藤(雅)委員、深見委員

オブザーバー:中村補佐、那須野係長

事務局:岡、吉原、渡部、品治

<議題>

1. 進捗状況報告
2. モデル・コア・カリキュラム(WG案)について
3. その他

第6回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成ワーキング会議

日時:平成27年12月22日(火) 16:05~18:15

場所:日本体育協会 特別室(岸記念体育会館1階)

出席者:土屋委員、伊藤(雅)委員、深見委員、森丘委員

事務局:岡部長、吉原、渡部、品治

<議題>

1. 第2回作成専門研究委員会の概要報告
2. ヒアリング調査結果 紹介
3. モデル・コア・カリキュラム案について再度協議

第7回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成ワーキング会議

日時:平成28年2月9日(火) 13:30~16:40

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

出席者:土屋委員、伊藤(雅)委員、関子委員、滝澤委員、深見委員、森丘委員、吉田委員

オブザーバー:相馬委員

事務局:岡、吉原、渡部、品治

<議題>

1. 評価・検証の進捗状況について(各担当チーム)
2. カリキュラム、教育目標ガイドラインについて
3. 大学におけるカリキュラム読み替え対応科目例について
4. 基礎編参考例について
5. コンピテンシー・リストについて
6. 報告書について
7. スケジュール確認

第3回コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成専門研究委員会

日時:平成28年2月24日(水) 10:00~12:00

場所:日本体育協会 理事・監事室(岸記念体育会館2階)

出席者:平野委員、石崎委員、今村委員、遠藤委員、具志堅委員、高橋委員、福田委員、

ワーキング:土屋委員、森丘委員

オブザーバー:中村補佐、那須野係長

事務局:岡、吉原、渡部、品治

<議題>

1. 進捗状況ご報告(検討経緯)
2. モデル・コア・カリキュラム(WG案)について
3. 大学におけるカリキュラム読み替え対応科目例について
4. 基礎編参考例(15回の授業例)について
5. コンピテンシー・リストについて
6. 報告書の作成について

委員名簿

【作成専門研究委員】

石崎朔子	日本女子体育大学 学長
今村 修	東海大学 体育学部 学部長
梅村義久	中京大学 スポーツ科学部 学部長 (※平成 26 年度)
遠藤俊郎	大東文化大学 スポーツ・健康科学部 学部長
加茂佳子	東京女子体育大学 学長
具志堅幸司	日本体育大学体育学部 学部長
真田 久	筑波大学 体育専門学群 学群長
高橋繁浩	中京大学 スポーツ科学部 学部長 (※平成 27 年度)
福田芳則	大阪体育大学 副学長
平野裕一	国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部長 ◎座長
望月浩一郎	虎ノ門協同法律事務所 弁護士
山口隆文	日本サッカー協会 技術委員会委員長

【作成ワーキングメンバー】

伊藤雅充	日本体育大学 児童スポーツ教育学部 准教授
伊藤リナ	日本オリンピック委員会 ナショナルコーチアカデミー アシスタントディレクター
関子浩二	筑波大学 体育専門学群 教授
滝澤幸孝	日本障がい者スポーツ協会 スポーツ推進部指導者育成課長補佐
土屋裕睦	大阪体育大学 体育学部 教授 ◎座長
半谷美夏	国立スポーツ科学センター メディカルセンター 医師
深見英一郎	早稲田大学 スポーツ科学部 准教授
森丘保典	日本体育協会 スポーツ科学研究室 室長代理
山浦一保	立命館大学 スポーツ健康科学部 准教授
山田永子	筑波大学 体育専門学群 助教
吉田昂司	FCゴール チーフディレクター

【オブザーバー】

関 伸夫	スポーツ庁 健康スポーツ課 課長補佐
中村徹平	スポーツ庁 参事官(民間スポーツ担当)参事官補佐
那須野親	スポーツ庁 参事官(民間スポーツ担当)係長
相馬浩隆	日本オリンピック委員会 キャリアアカデミー アシスタントディレクター

【事務局】

岡 達生	日本体育協会 スポーツ指導者育成部 部長
吉原暁憲	日本体育協会 スポーツ指導者育成部育成課 課長
渡部 丞	日本体育協会 スポーツ指導者育成部育成課 主事
品治恵子	日本体育協会 スポーツ指導者育成部育成課 主事
牧野 耕	日本体育協会 総務部広報・キャンペーン課 係長

平成 27 年度コーチ育成のための
「モデル・コア・カリキュラム」作成事業報告書

発行／公益財団法人 日本体育協会

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

URL:<http://www.japan-sports.or.jp>

印刷:ホクエツ印刷株式会社

平成 28 年 3 月 31 日発行

本掲載内容の無断転載を禁じます

平成 27 年度スポーツ庁委託事業

【コーチング・イノベーション推進事業】

